

2018年度 広聴調査の概要

独立行政法人日本学生支援機構

目次

調査方法の概要	3
調査結果の概要	
1. 情報収集ツールの利用状況	4
2-1. 日本学生支援機構の認知状況【高校生】	8
2-2. 日本学生支援機構の認知状況【保護者】	13
3-1. 国内奨学金事業の認知状況【高校生】	18
3-2. 国内奨学金事業の認知状況【保護者】	20
4-1. 海外留学支援事業の認知状況【高校生】	22
4-2. 海外留学支援事業の認知状況【保護者】	24
5-1. 障害学生支援事業の認知状況【高校生】	26
5-2. 障害学生支援事業の認知状況【保護者】	27
6-1. 日本学生支援機構のイメージ【高校生】	28
6-2. 日本学生支援機構のイメージ【保護者】	30
7. 日本学生支援機構への意見	32

調査方法の概要

2018年度 広聴調査（2006年度より隔年で実施。前は大学生等を対象として2016年度に実施）

調査目的

進学・留学の検討実態、日本学生支援機構（以下「JASSO」とする。）の認知状況等を把握し、事業の改善、広報の充実等に資する。

※今回は、奨学金事業における予約採用の拡大、学部での学位取得を目的とする海外留学支援制度の創設等を踏まえ、高等教育への進学希望のある高校生及び保護者をモニターとして、初めて調査を行った。

調査対象者

【性別】男女 【地域】全国

(1) 高等教育への進学希望のある高校生(15歳～18歳) ※ 以下「高校生」とする。

(2) (1) の子を持つ保護者(30～60歳代) ※ 以下「保護者」とする。

※(1)と(2)は必ずしも親子ではない

サンプル数

本調査：838サンプル

(1) 高校生 回答数 430名 【内訳】男性：115名／女性 315名

(2) 保護者 回答数 408名 【内訳】男性：189名／女性 219名

調査手法

インターネットモニター調査 ※

※調査会社にモニター登録している人に対して調査回答依頼を行い、ウェブ上の調査画面から回答してもらう調査・アンケート回収方法

調査期間

2018年11月1日（木）～11月6日（火）

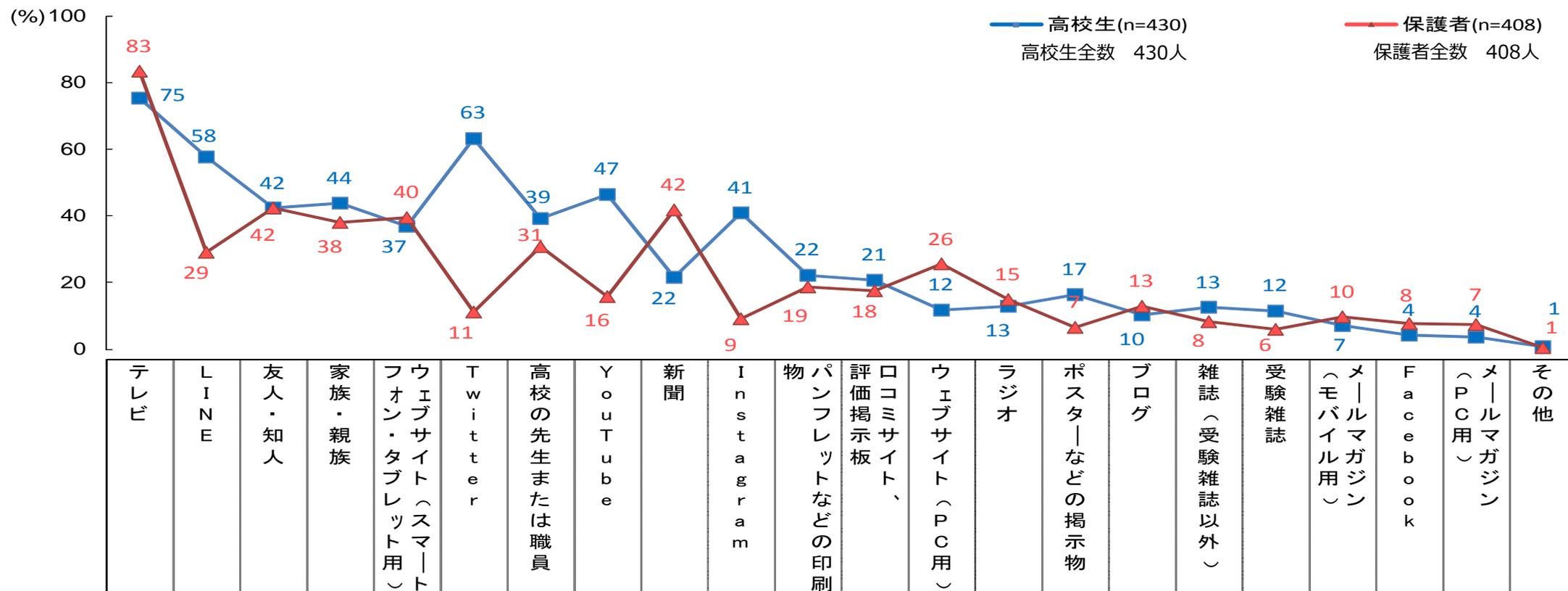
調査結果の概要

1. 情報収集ツールの利用状況

(1) 日常的な情報収集

- 日常的な情報収集においては、高校生、保護者ともに、**テレビ**を最も参考に行っている。
- 次いで、**高校生はSNS(Twitter,LINE,YouTube)**を、**保護者は新聞**をより参考に行っている。
- **ウェブサイト**については、**高校生の場合、スマートフォン・タブレットからの利用が、PCからの利用を3倍超上回っている。**

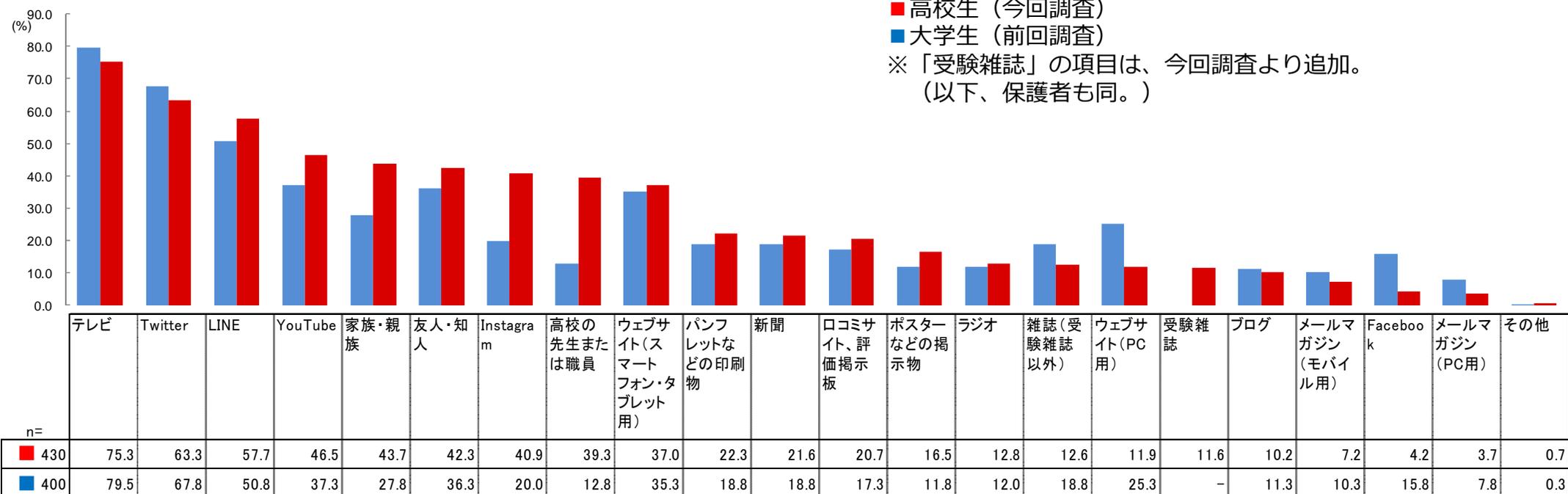
日常的に必要な情報を収集する際の参考にする情報源



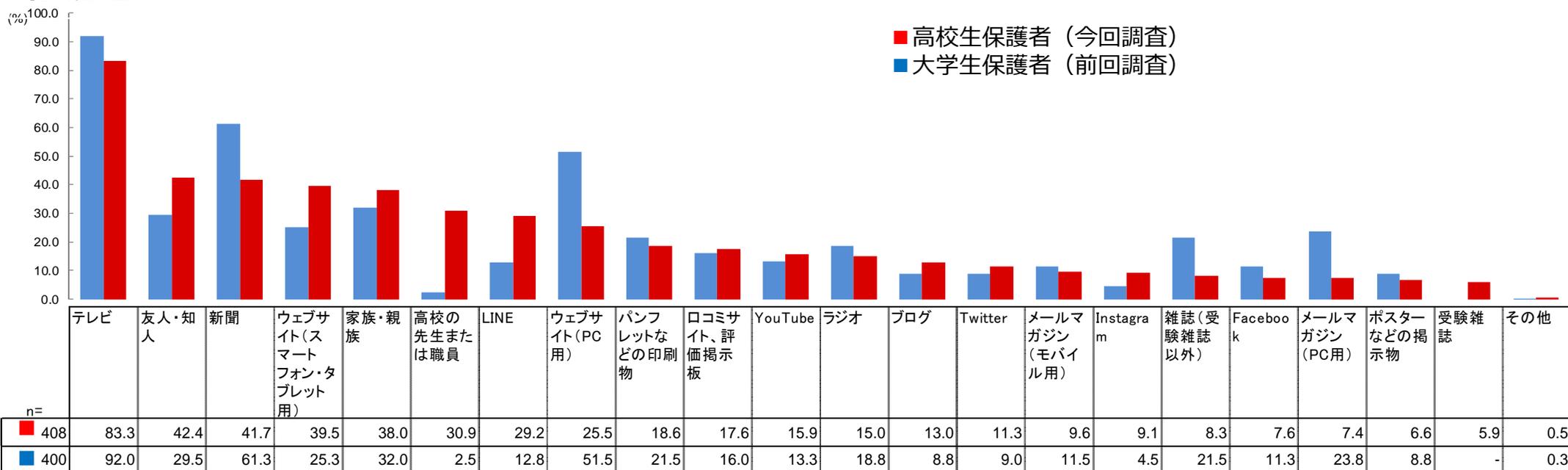
【参考】 前回調査（2016年度・大学生及び大学生保護者）との比較

高校生及び大学生

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



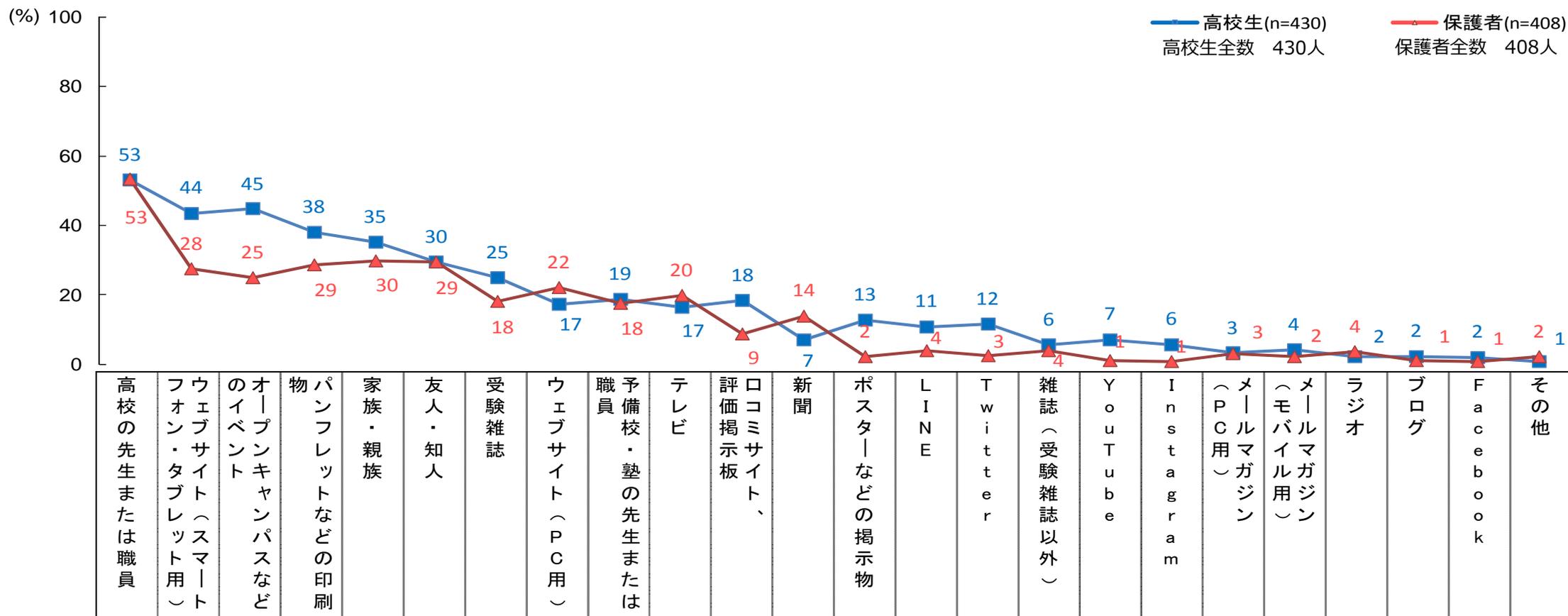
保護者



(2) 進学情報の収集

- 進学情報の収集源としては、高校生、保護者ともに、高校の先生または職員が最多。
- 一方、SNSについては、進学情報の収集源としては高校生もほとんど利用しておらず、ウェブサイトの利用が多い。
その要因としては、①SNSは情報を自ら獲得しにいくというよりも、流れてくる情報を受け身で得るという使い方が主であること、②公的機関における情報の発信・蓄積がウェブサイトほどにはなされていないこと等が考えられる。

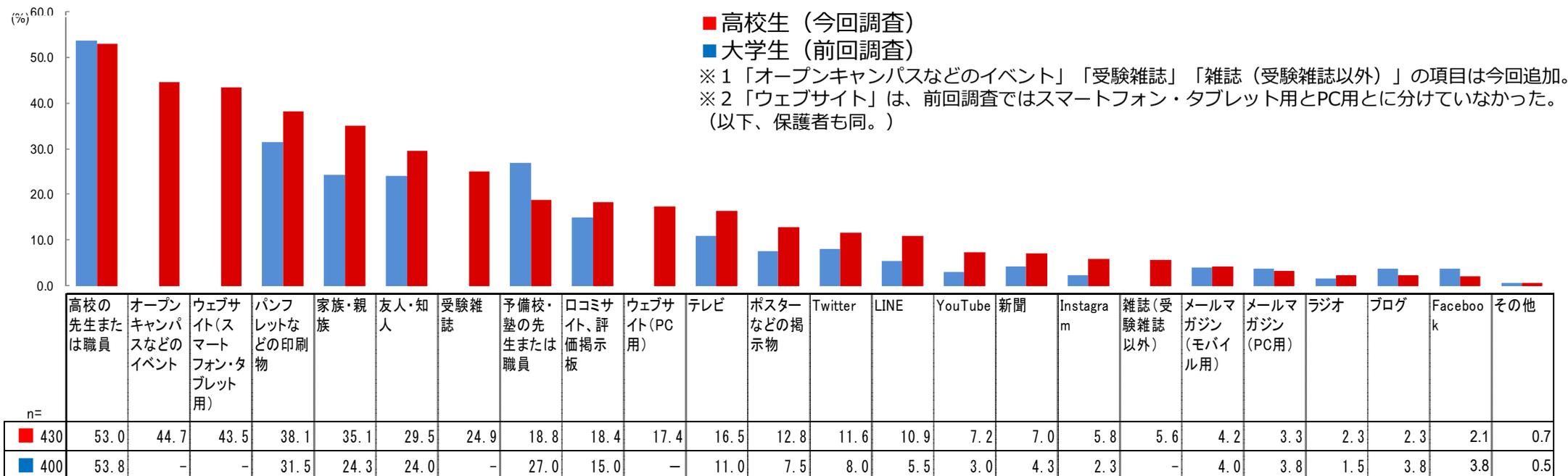
進学情報を収集する際の参考にする情報源



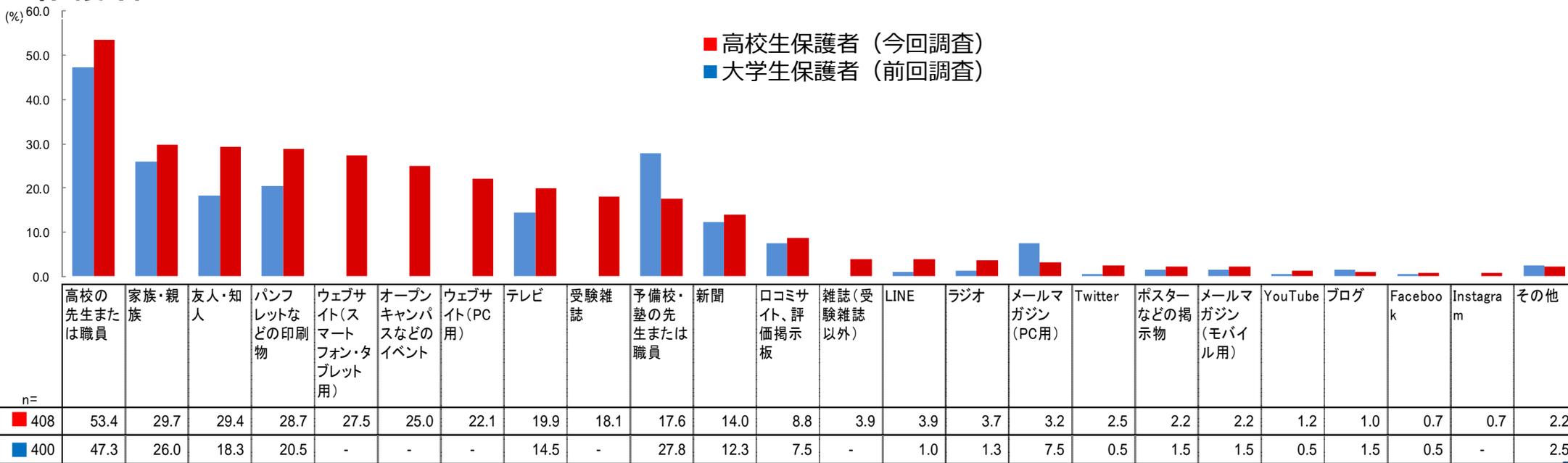
【参考】 前回調査（2016年度・大学生及び大学生保護者）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

高校生及び大学生

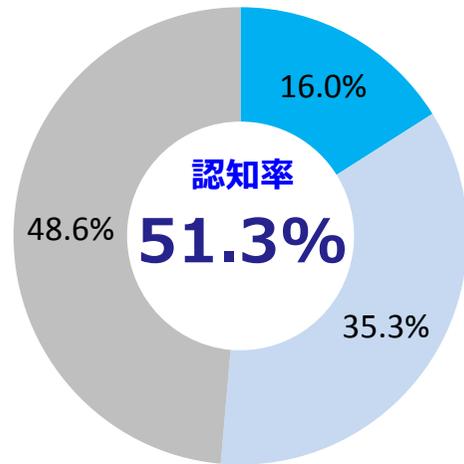


保護者



2-1. 日本学生支援機構の認知状況【高校生】

(1) 認知率



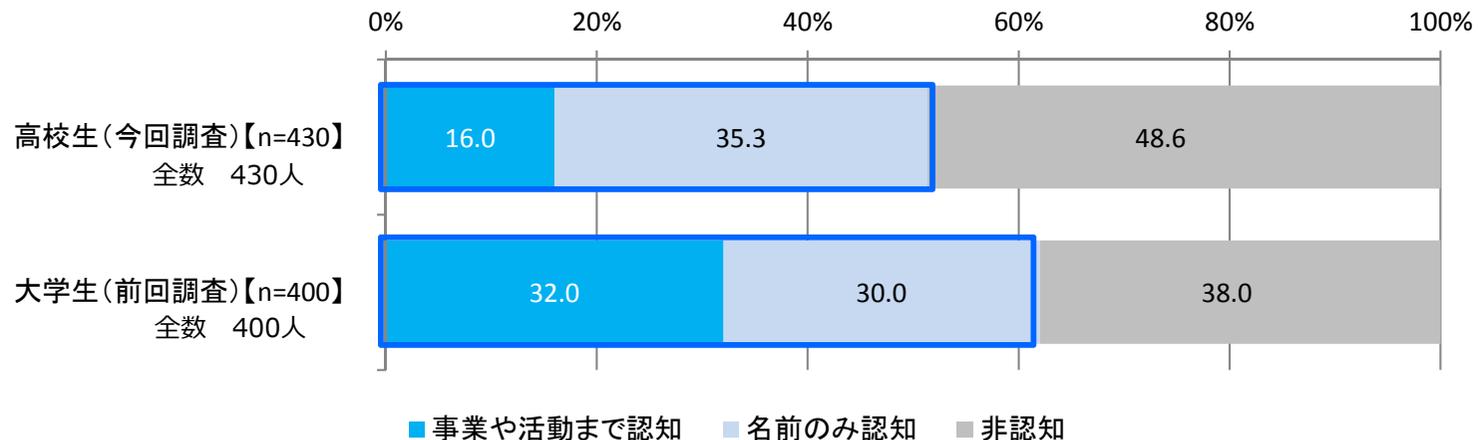
- 事業や活動まで認知
- 名前のみ認知
- 非認知

➤ **51.3%の高校生がJASSOのことを認知。**
(名前のみ認知35.3% 事業や活動まで認知16.0%)

n=430
高校生全数 430人を対象に集計

【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



2-1. 日本学生支援機構の認知状況【高校生】

(2) 認知経路

- JASSOについての認知経路は、1.の進学情報の収集源と同じく「高校の先生または職員」が主。
- 家族・親族、友人・知人といった人を介しての認知も多い一方、ウェブサイト、SNSを通じた認知は少ない。

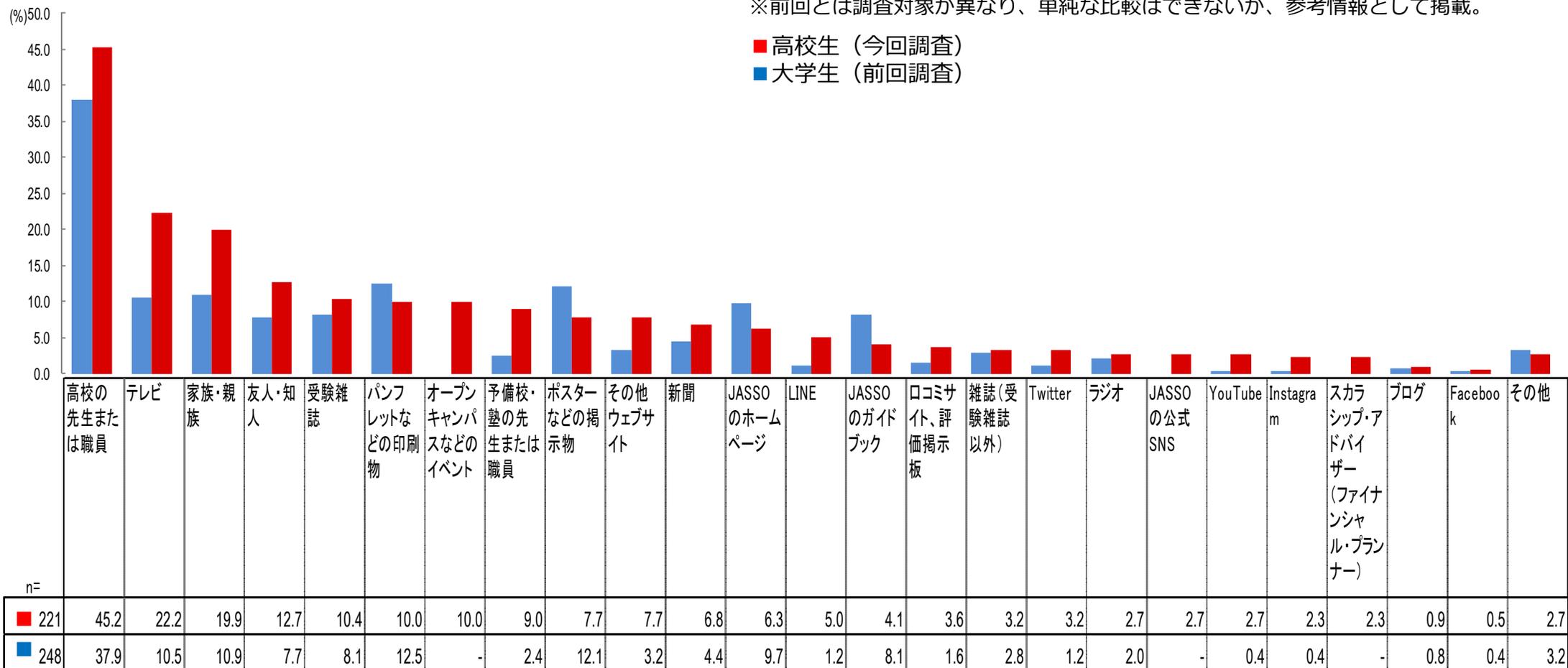


n=		高校の先生または職員	テレビ	家族・親族	友人・知人	受験雑誌	パンフレットなどの印刷物	オープンキャンパスなどのイベント	予備校・塾の先生または職員	ポスターなどの掲示物	その他のウェブサイト	新聞	JASSOのホームページ	LINE	JASSOのガイドブック	口コミサイト、評価掲示板	雑誌(受験雑誌以外)	Twitter	ラジオ	JASSOの公式SNS	YouTube	Instagram	スカラシップ・アドバイザー(ファイナンシャル・プランナー)	ブログ	Facebook	その他
全体	221	45.2	22.2	19.9	12.7	10.4	10.0	9.0	7.7	7.7	6.8	6.3	5.0	4.1	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.7	2.3	2.3	0.9	0.5	2.7	
認知状況	事業や活動まで認知	69	60.9	17.4	29.0	13.0	14.5	14.5	15.9	5.8	4.3	10.1	14.5	7.2	8.7	4.3	4.3	2.9	2.9	5.8	1.4	2.9	4.3	0.0	0.0	0.0
	名前のみ認知	152	38.2	24.3	15.8	12.5	9.2	7.9	7.9	5.9	8.6	9.2	5.3	2.6	3.9	2.0	3.3	2.6	3.3	2.6	1.3	3.3	2.0	1.3	1.3	0.7

【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

■ 高校生（今回調査）
■ 大学生（前回調査）

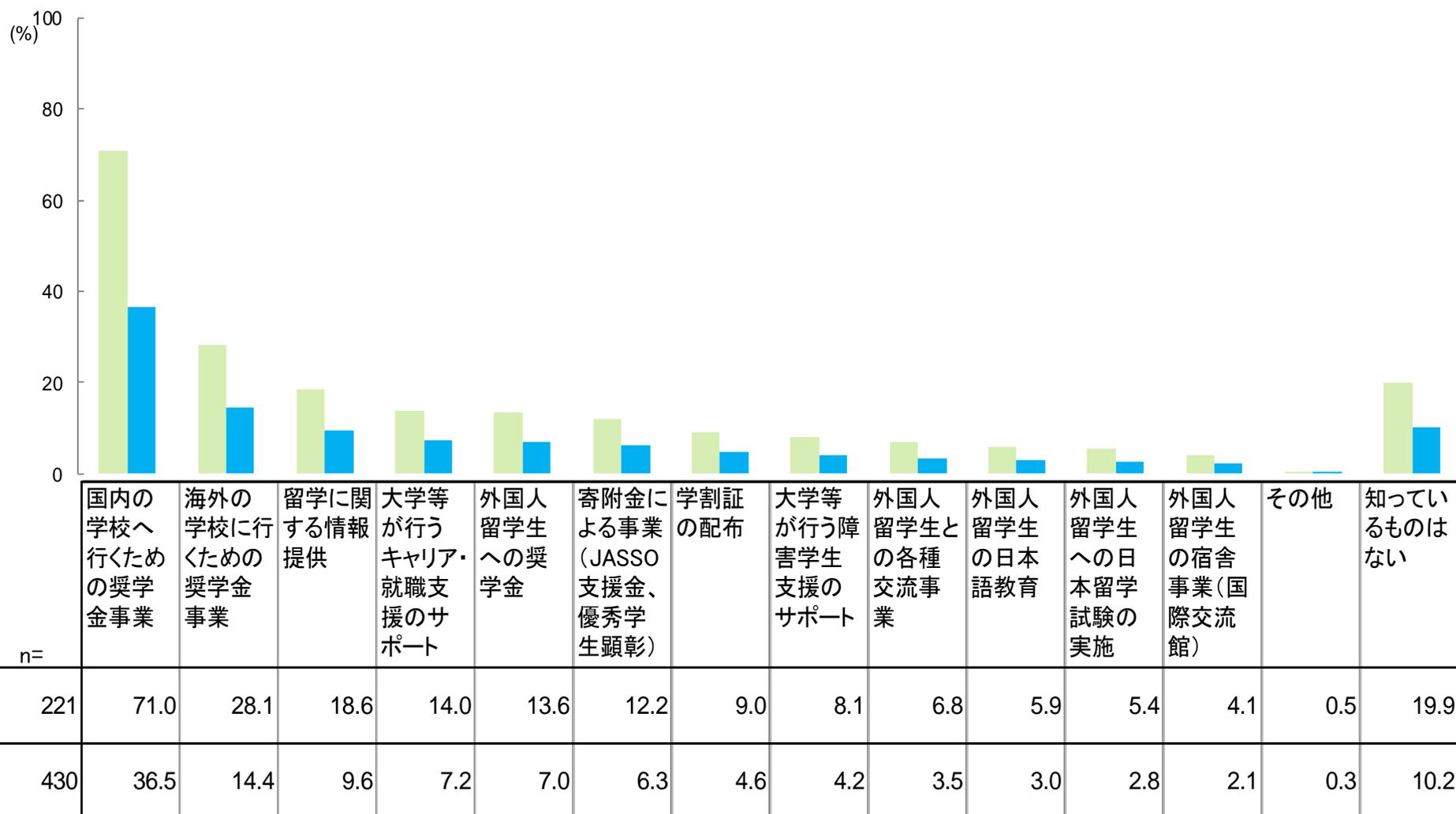


※「オープンキャンパスなどのイベント」「JASSOの公式SNS」「スカラシップアドバイザー」は、今回調査より追加。

2 - 1 . 日本学生支援機構の認知状況【高校生】

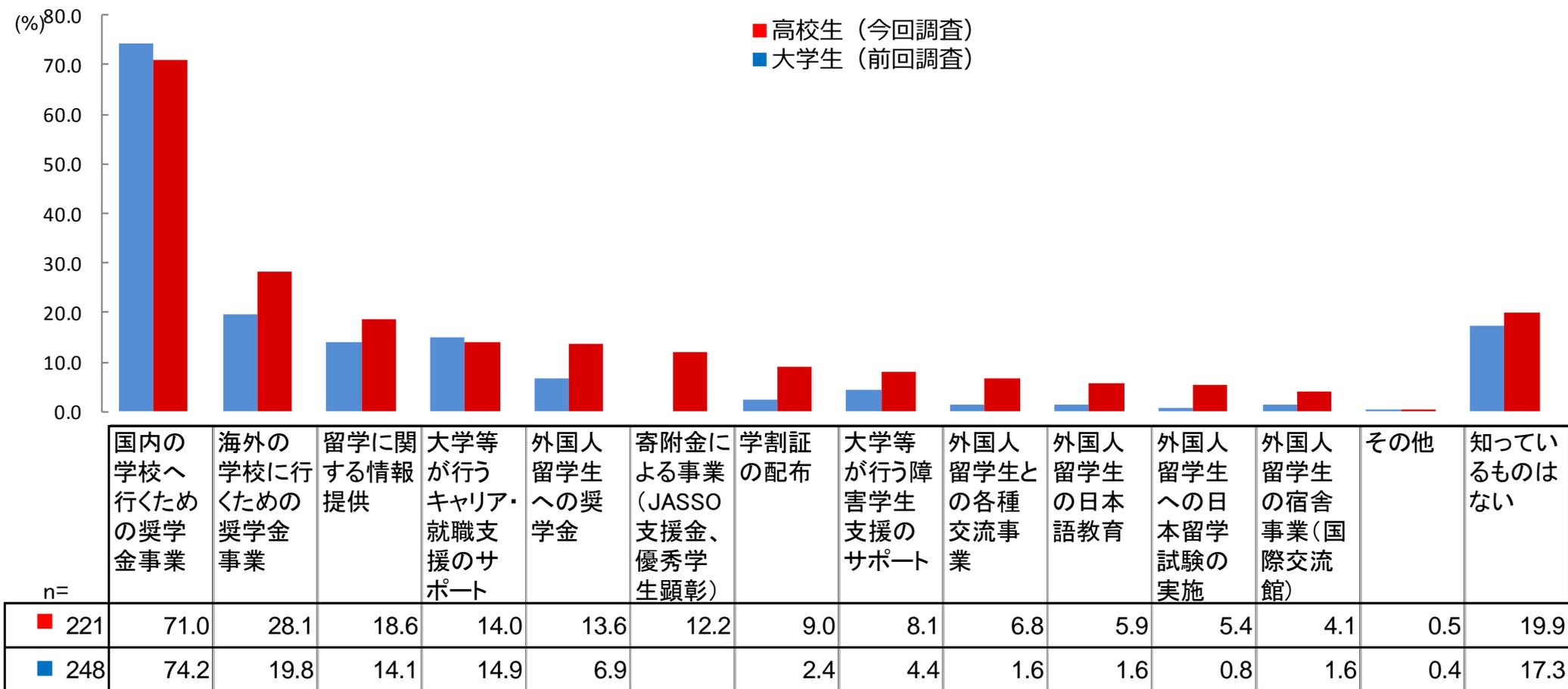
(3) 認知している事業

- JASSOのことを認知している高校生の約7割が「国内の学校に行くための奨学金事業」を、約3割が「海外の学校に行くための奨学金事業」を認知している。
- 一方、高校生全体で見れば「国内の学校に行くための奨学金事業」についても認知率は4割弱。



【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

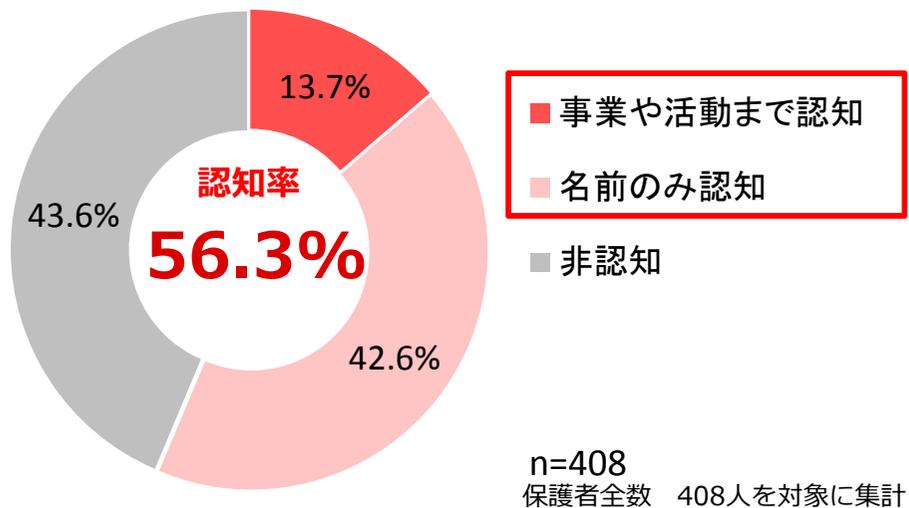
※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



※「寄附金による事業」は、今回の調査より調査項目に追加。

2-2. 日本学生支援機構の認知状況【保護者】

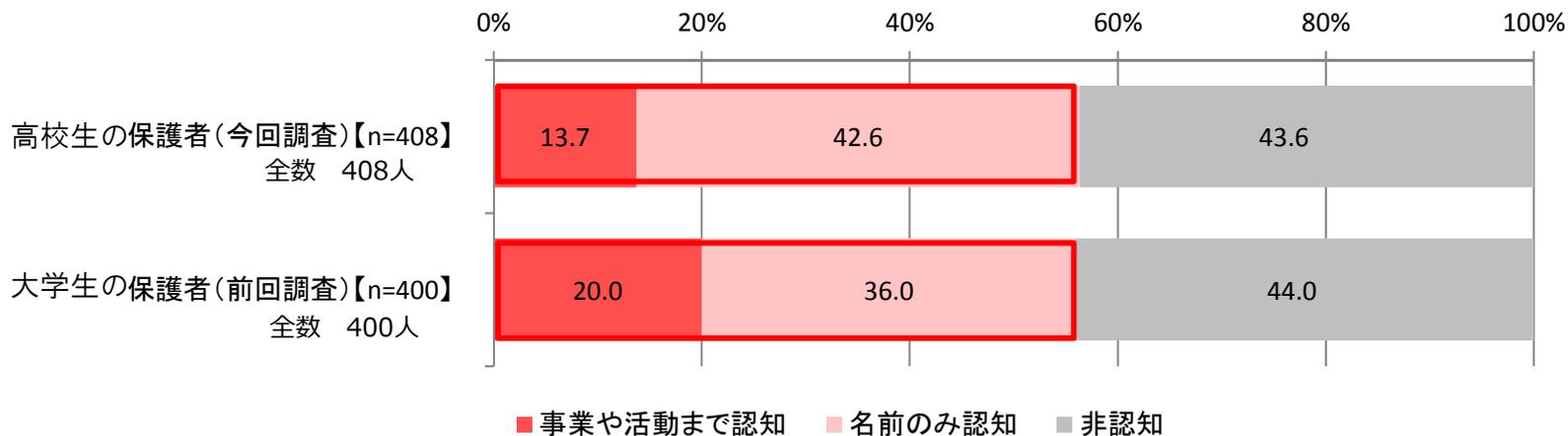
(1) 認知率



➤ **56.3%の保護者がJASSOのことを認知。**
(名前のみ認知42.6% 事業や活動の概要まで認知13.7%)

【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

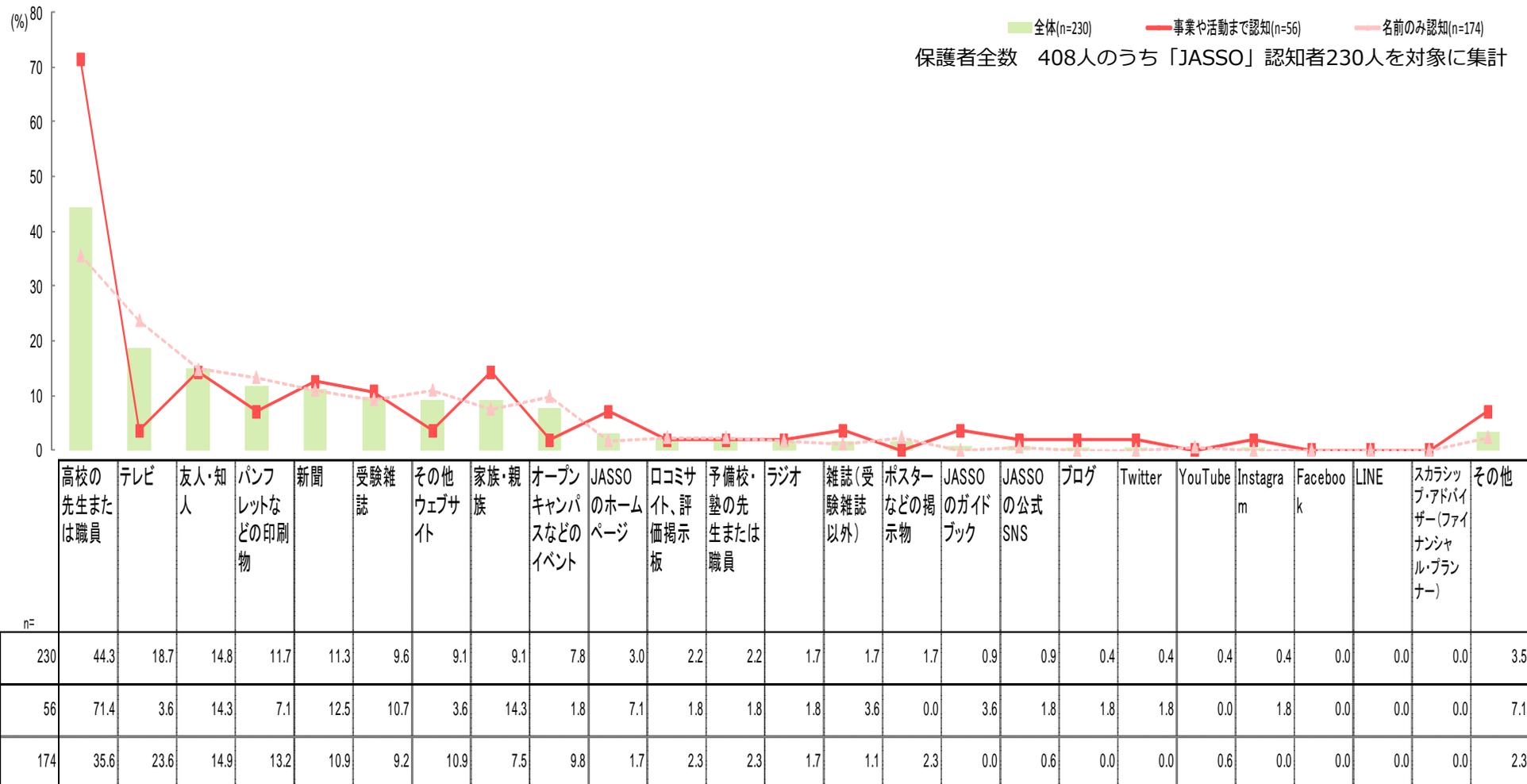
※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



2-2. 日本学生支援機構の認知状況【保護者】

(2) 認知経路

- JASSOについての認知経路は、1.の進学情報の収集源と同じく「高校の先生または職員」が主。
- 特に、事業や活動まで認知している者については、7割超が高校の先生または職員からJASSOのことを認知。
- 一方、家族、友人等からの口コミや印刷物を含め、アナログな経路からの認知も多い。

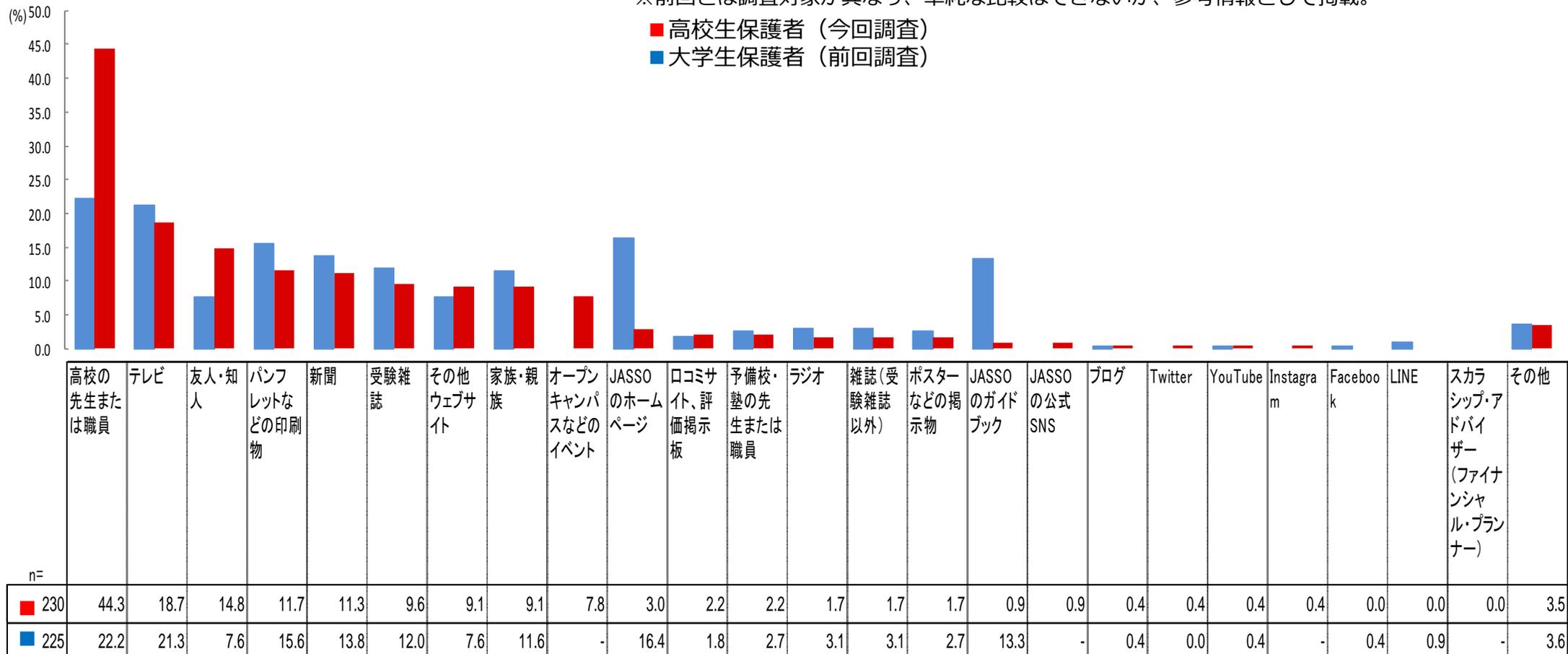


【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

■ 高校生保護者（今回調査）

■ 大学生保護者（前回調査）



※「オープンキャンパスなどのイベント」「JASSOの公式SNS」「スカラシップアドバイザー」は、今回調査より追加。

2-2. 日本学生支援機構の認知状況【保護者】

(3) 認知している事業

- JASSOのことを認知している保護者の約8割が「国内の学校に行くための奨学金事業」を認知しているが、他の事業の認知率は、最大でも1割程度。
- 保護者全体で見れば、「国内の学校に行くための奨学金事業」でも認知率は5割弱。



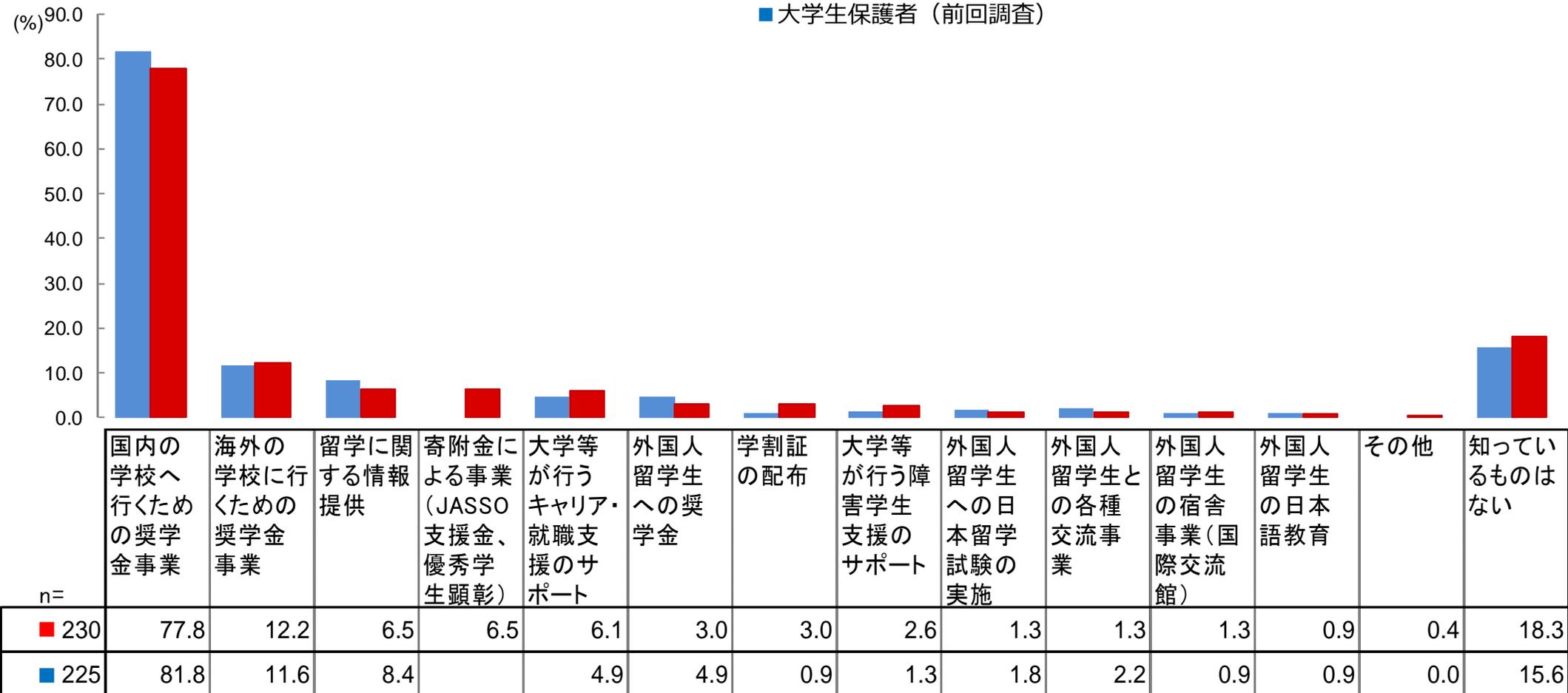
	n=	国内の学校へ行くための奨学金事業	海外の学校へ行くための奨学金事業	留学に関する情報提供	寄附金による事業 (JASSO支援金、優秀学生顕彰)	大学等が行うキャリア・就職支援のサポート	外国人留学生への奨学金	学割証の配布	大学等が行う障害学生支援のサポート	外国人留学生への日本留学試験の実施	外国人留学生との各種交流事業	外国人留学生の宿舍事業 (国際交流館)	外国人留学生の日本語教育	その他	知っているものはない
JASSO認知者 ■	230	77.8	12.2	6.5	6.5	6.1	3.0	3.0	2.6	1.3	1.3	1.3	0.9	0.4	18.3
保護者全体 ■	408	43.9	6.9	3.7	3.7	3.4	1.7	1.7	1.5	0.7	0.7	0.7	0.5	0.2	10.3

【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

■ 高校生保護者（今回調査）

■ 大学生保護者（前回調査）

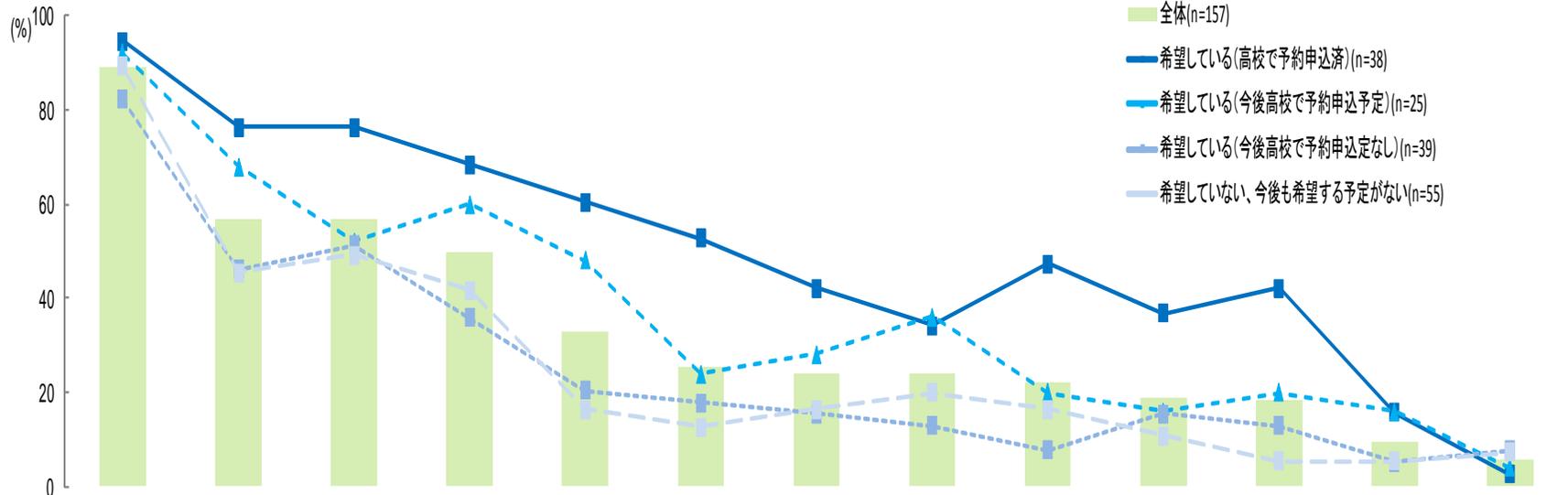


※「寄附金による事業」は、今回の調査より調査項目に追加。

3-1. 国内奨学金事業の認知状況【高校生】

- 奨学金の貸与（貸与型奨学金）については、存在についての認知度が約9割に達しているが、貸与後の返還義務の認知度は約6割。
- 一方、2018年度から本格実施となった奨学金の支給（給付型奨学金）については、認知率が約1/3。

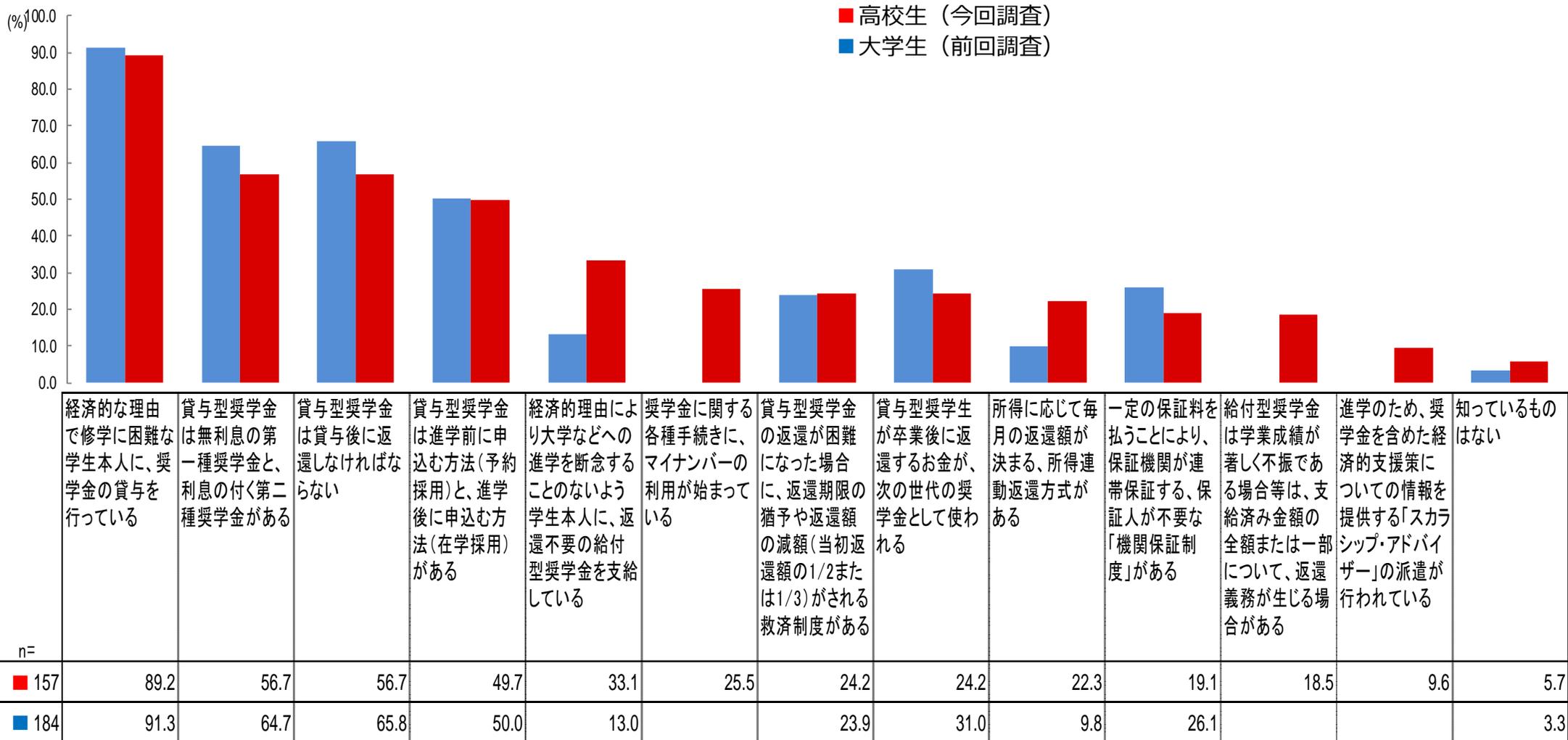
高校生全数430人のうち、「国内の学校に行くための奨学金事業」認知者（71.0%）157名を対象に調査



		n=	経済的な理由で修学に困難な学生本人に、奨学金の貸与を行っている	貸与型奨学金は無利息の第一種奨学金と、利息の付く第二種奨学金がある	貸与型奨学金は貸与後に返還しなければならない	貸与型奨学金は進学前に申込み方法（予約採用）と、進学後に申込み方法（在学採用）がある	経済的理由により大学などへの進学を断念することのないよう学生本人に、返還不要の給付型奨学金を支給している	奨学金に関する各種手続きに、マイナンバーの利用が始まっている	貸与型奨学金の返還が困難になった場合に、返還期限の猶予や返還額の減額（当初返還額の1/2または1/3）がされる救済制度がある	貸与型奨学金が卒業後に返還するお金が、次の世代の奨学金として使われる	所得に応じて毎月の返還額が決まる、所得連動返還方式がある	一定の保証料を払うことにより、保証機関が連帯保証する、保証人が不要な「機関保証制度」がある	給付型奨学金は学業成績が著しく不振である場合等は、支給済み金額の全額または一部について、返還義務が生じる場合がある	進学のため、奨学金を含めた経済的支援策についての情報を提供する「スカラシップ・アドバイザー」の派遣が行われている	知っているものはない
全体(国内奨学金事業認知者)		157	89.2	56.7	56.7	49.7	33.1	25.5	24.2	24.2	22.3	19.1	18.5	9.6	5.7
貸与型奨学金 利用意向	希望している(高校で予約申込済)	38	94.7	76.3	76.3	68.4	60.5	52.6	42.1	34.2	47.4	36.8	42.1	15.8	2.6
	希望している(今後高校で予約申込予定)	25	92.0	68.0	52.0	60.0	48.0	24.0	28.0	36.0	20.0	16.0	20.0	16.0	4.0
	希望している(今後高校で予約申込なし)	39	82.1	46.2	51.3	35.9	20.5	17.9	15.4	12.8	7.7	15.4	12.8	5.1	7.7
	希望していない、今後も希望する予定がない	55	89.1	45.5	49.1	41.8	16.4	12.7	16.4	20.0	16.4	10.9	5.5	5.5	7.3

【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

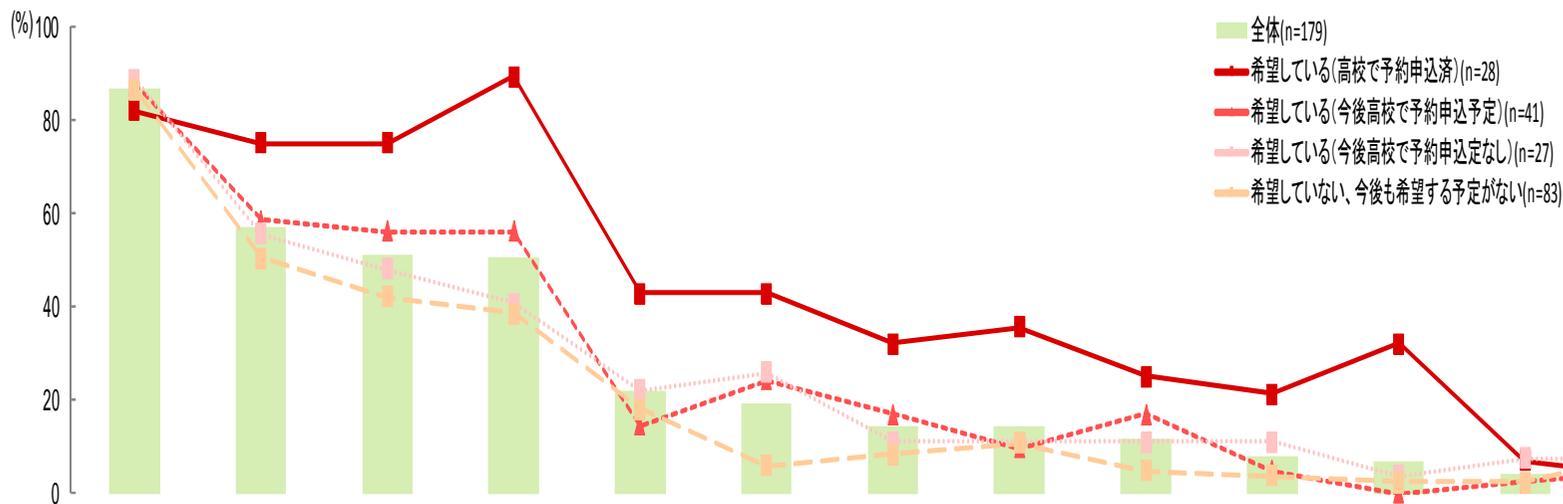


※「マイナンバーの利用」「給付型奨学金の成績不振の際の返還義務」「スカラシップアドバイザー」は、今回の調査より追加。
 ※「給付型奨学金」「所得連動」に係る調査項目について、前回調査においては「平成29年度より実施される予定である」と記載。

3-2. 国内奨学金事業の認知状況【保護者】

- 奨学金の貸与（貸与型奨学金）については、存在についての認知度が約9割に達しているが、貸与後の返還義務の認知度は約6割。
- 一方、2018年度から本格実施となった奨学金の支給（給付型奨学金）については、認知率が約15%。

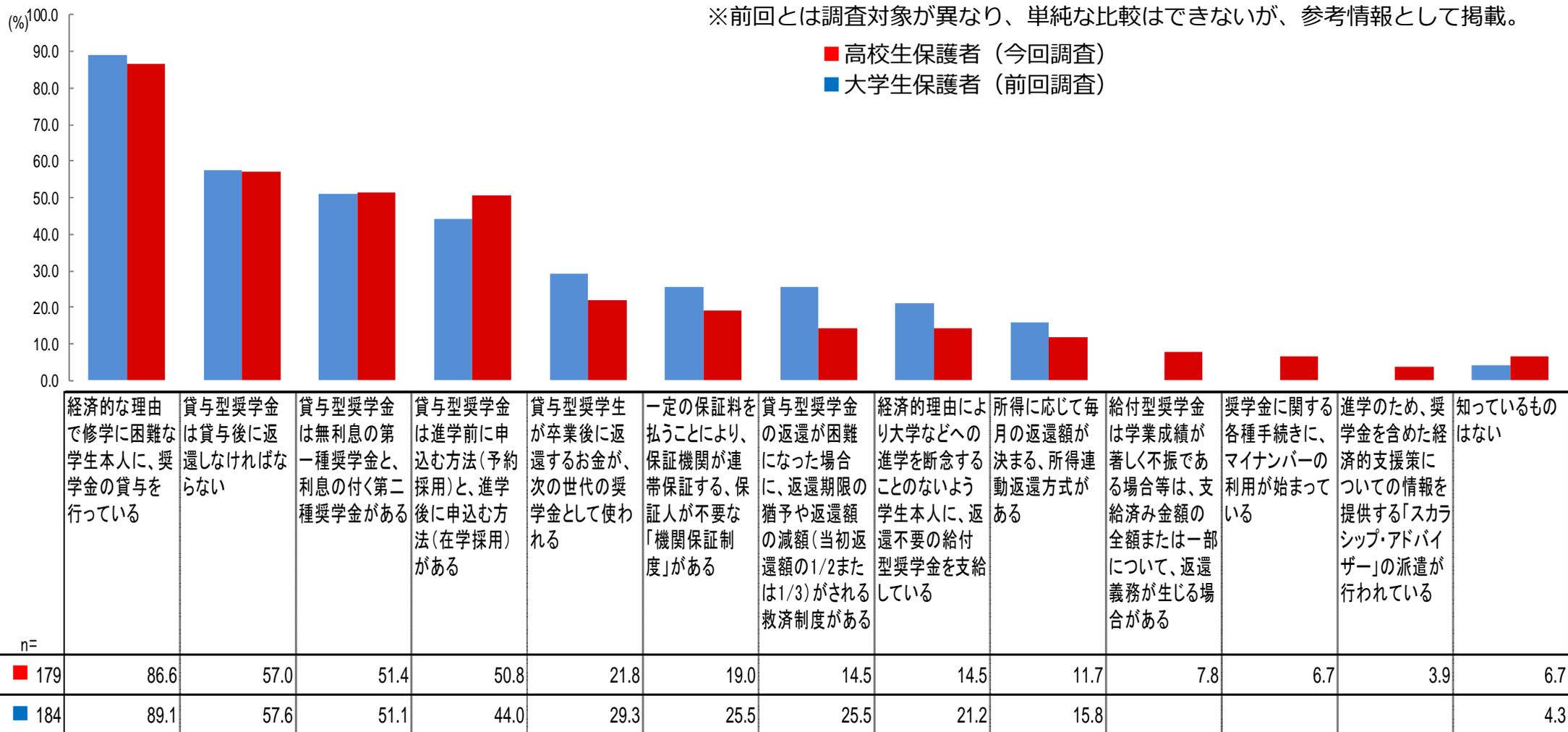
高校生保護者全数408人のうち、「国内の学校に行くための奨学金事業」認知者（77.8%）179名を対象に調査



n=		経済的な理由で修学に困難な学生本人に、奨学金の貸与を行っている	貸与型奨学金は貸与後に返還しななければならない	貸与型奨学金は無利息の第一種奨学金と、利息の付く第二種奨学金がある	貸与型奨学金は進学前に申込み方法(予約採用)と、進学後に申込み方法(在学採用)がある	貸与型奨学金が卒業後に返還するお金が、次の世代の奨学金として使われる	一定の保証料を払うことにより、保証機関が連帯保証する、保証人が不要な「機関保証制度」がある	貸与型奨学金の返還が困難になった場合に、返還期限の猶予や返還額の減額(当初返還額の1/2または1/3)がされる救済制度がある	経済的理由により大学などへの進学を断念することのないよう学生本人に、返還不要の給付型奨学金を支給している	所得に応じて毎月の返還額が決まる、所得連動返還方式がある	給付型奨学金は学業成績が著しく不振である場合等は、支給済み金額の全額または一部について、返還義務が生じる場合がある	奨学金に関する各種手続きに、マイナンバーの利用が始まっている	進学のため、奨学金を含めた経済的支援策についての情報を提供する「スカラシップ・アドバイザー」の派遣が行われている	知っているものはない
全体(国内奨学金事業認知者)	179	86.6	57.0	51.4	50.8	21.8	19.0	14.5	14.5	11.7	7.8	6.7	3.9	6.7
貸与型奨学金利用意向	希望している(高校で予約申込済)	82.1	75.0	75.0	89.3	42.9	42.9	32.1	35.7	25.0	21.4	32.1	7.1	3.6
	希望している(今後高校で予約申込予定)	41	87.8	58.5	56.1	14.6	24.4	17.1	9.8	17.1	4.9	0.0	2.4	4.9
	希望している(今後高校で予約申込なし)	27	88.9	55.6	48.1	40.7	22.2	25.9	11.1	11.1	11.1	3.7	7.4	7.4
	希望していない、今後も希望する予定がない	83	86.7	50.6	42.2	38.6	18.1	6.0	8.4	10.8	4.8	3.6	2.4	2.4

【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

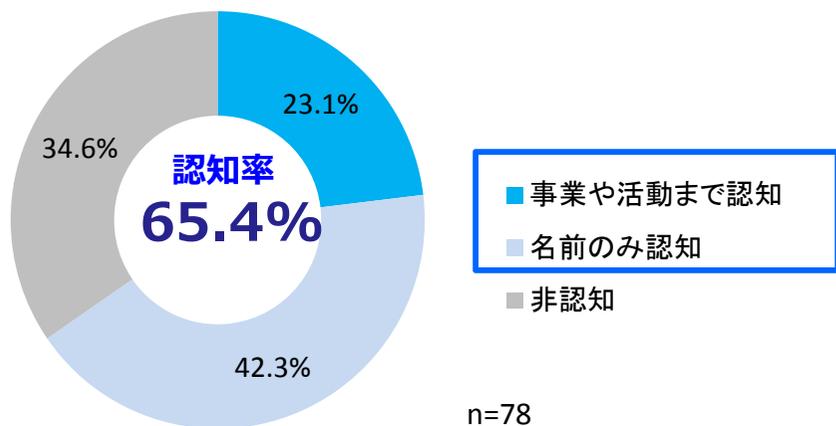
※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



※「マイナンバーの利用」「給付型奨学金の成績不振の際の返還義務」「スカラシップアドバイザー」は、今回の調査より追加。
 ※「給付型奨学金」「所得連動」に係る調査項目について、前回調査においては「平成29年度より実施される予定である」と記載。

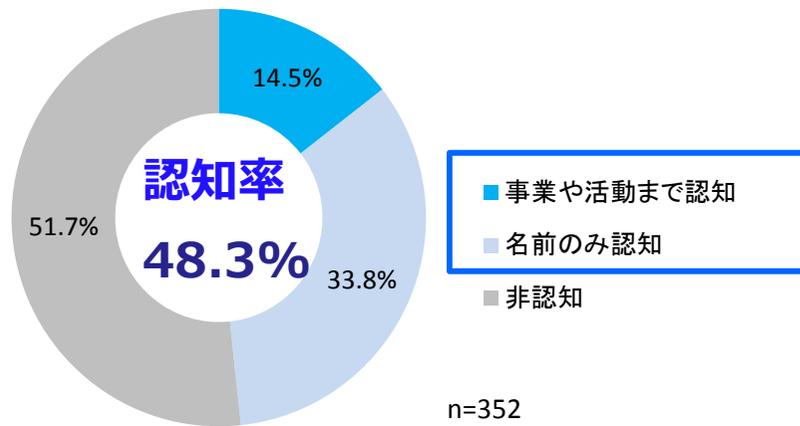
4-1. 海外留学支援事業の認知状況【高校生】

(1) 海外留学予定・経験がある高校生のJASSO認知率



高校生全数430人のうち、海外留学予定・経験のある78名を対象に集計。

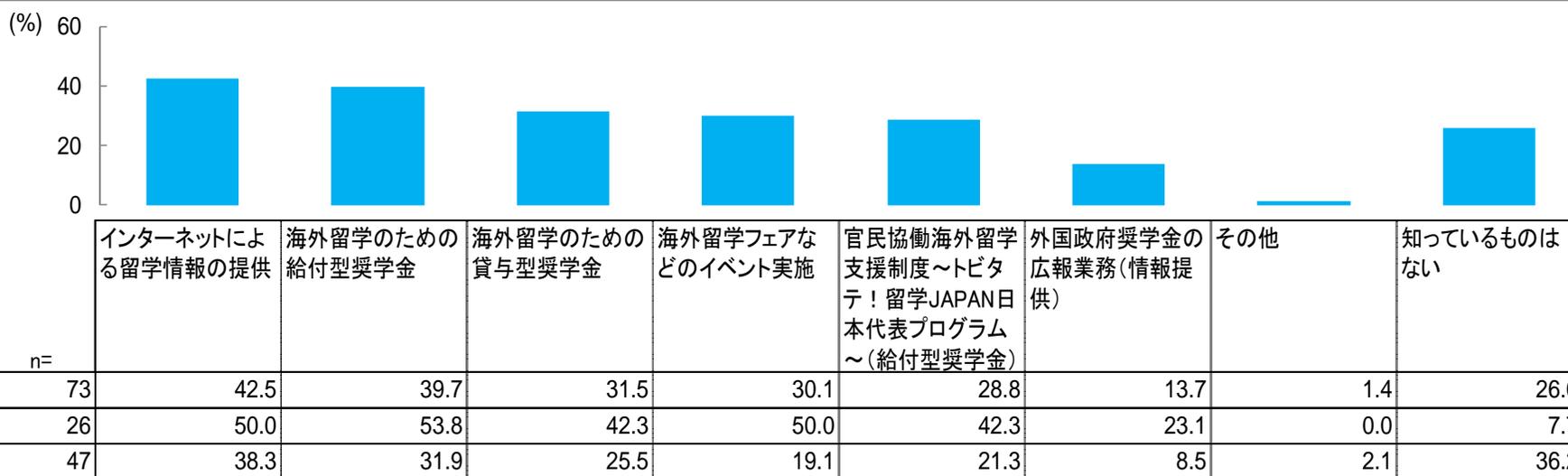
(2) 海外留学予定・経験がない高校生のJASSO認知率



高校生全数430人のうち、海外留学予定・経験のない352名を対象に集計。

(3) 海外留学支援事業の認知状況

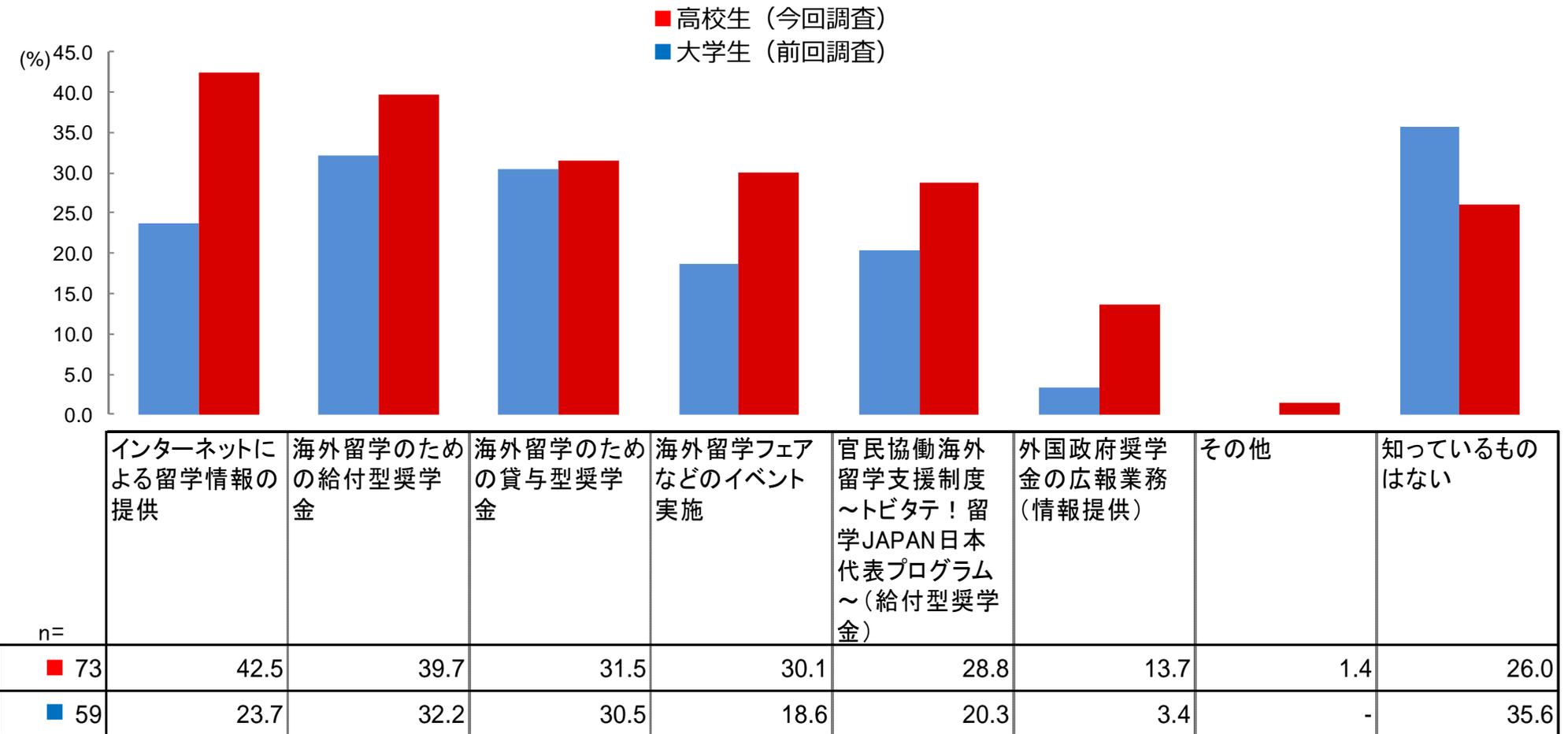
➤ JASSOの海外留学支援事業（海外の学校に行くための奨学金事業、留学に関する情報提供）について知っている高校生の約**4割がインターネットによる留学情報の提供、海外留学のための給付型奨学金を認知。**



海外留学予定・経験の有無を問わず、JASSOの海外留学支援事業を認知している高校生73名を対象に集計。

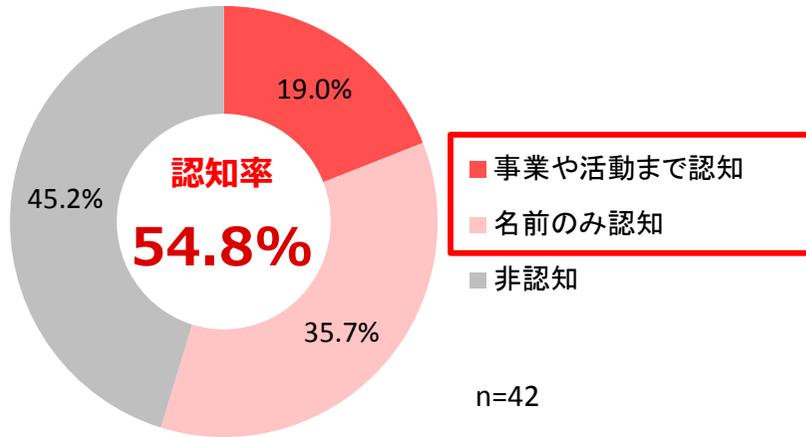
【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



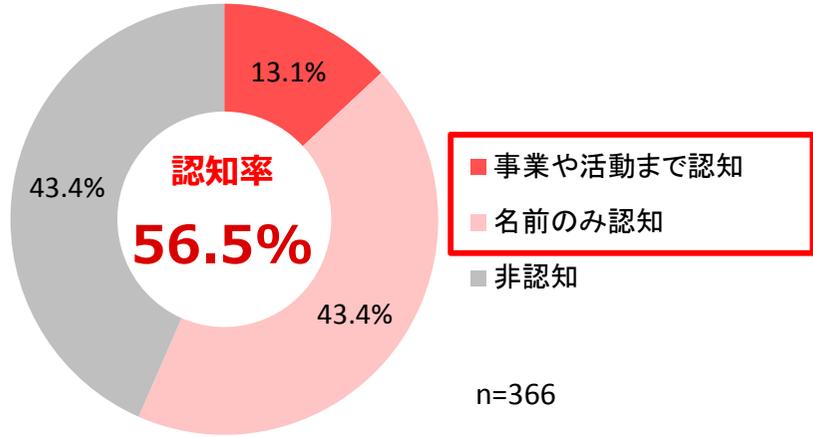
4-2. 海外留学支援事業の認知状況【保護者】

(1) 海外留学予定・経験がある保護者のJASSO認知率



保護者全数408人のうち、海外留学予定・経験のある子どもを持つ42名を対象に集計。

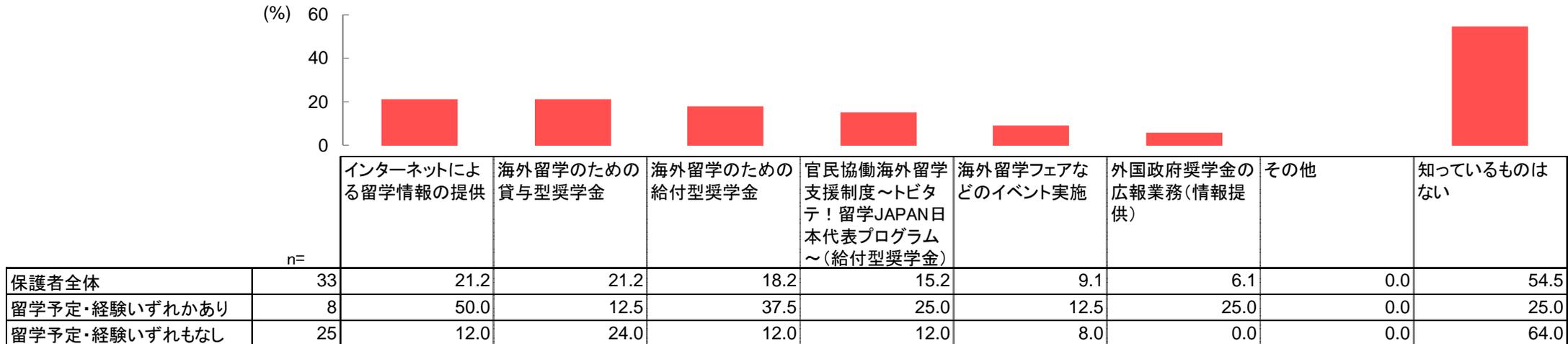
(2) 海外留学予定・経験がない保護者のJASSO認知率



保護者全数408人のうち、海外留学予定・経験のない子どもを持つ366名を対象に集計。

(3) 海外留学支援事業の認知状況

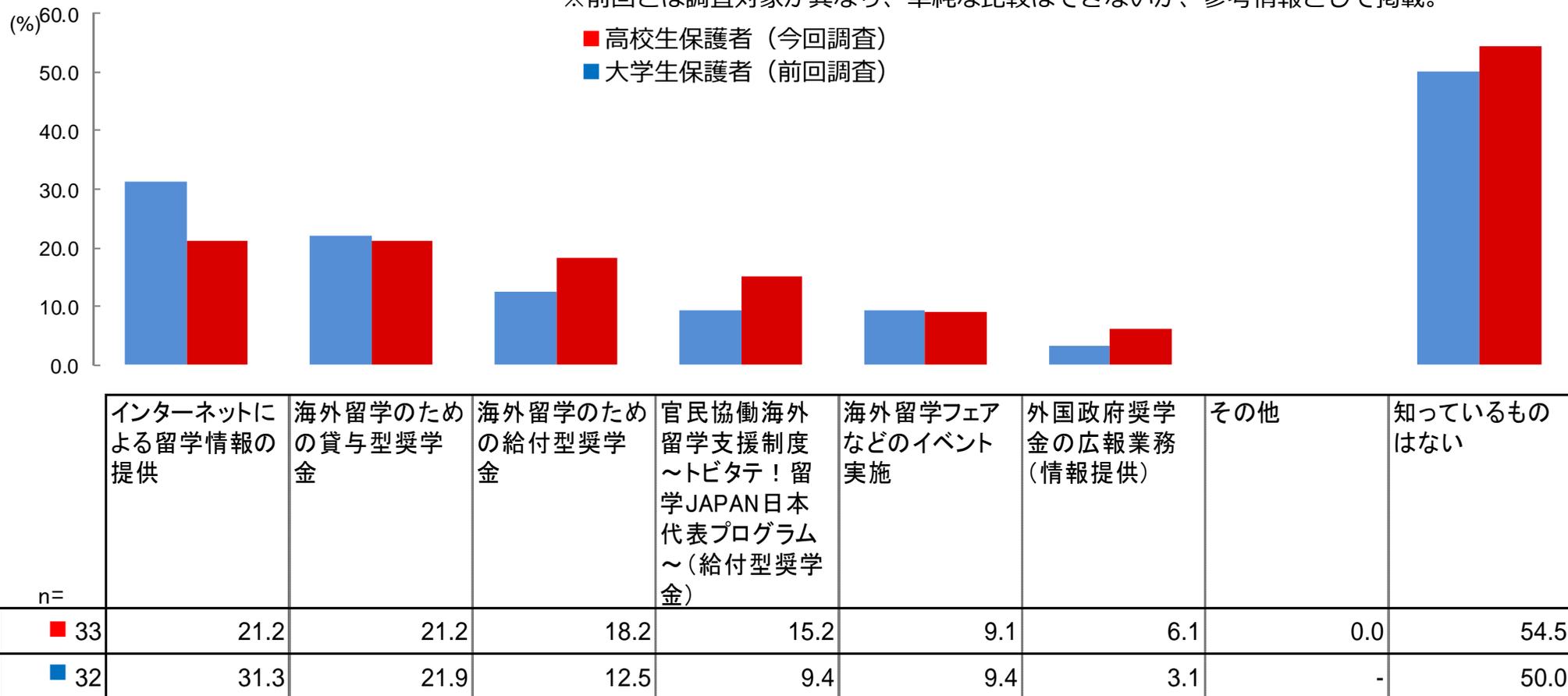
➤ JASSOの海外留学支援事業について知っている保護者全体の2割程度がインターネットによる留学情報の提供、海外留学のための貸与型奨学金を認知。



海外留学予定・経験の有無を問わず、JASSOの海外留学支援事業を認知する保護者33名を対象に集計。

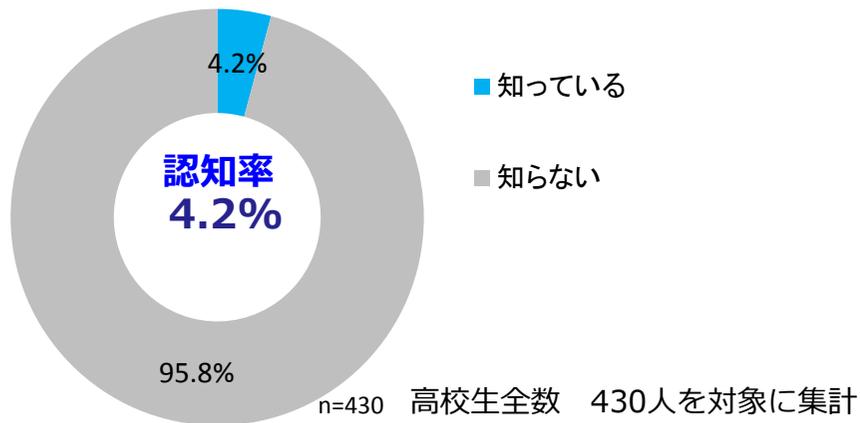
【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

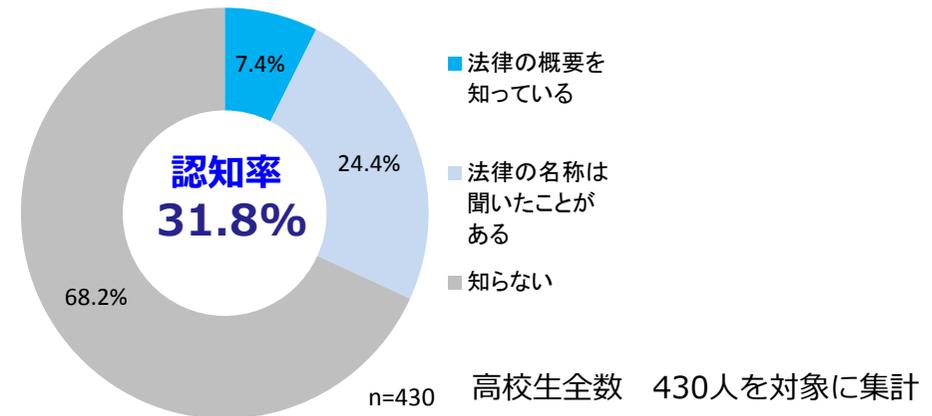


5-1. 障害学生支援事業の認知状況【高校生】 ※今回が初調査

(1) 障害学生支援事業の認知率

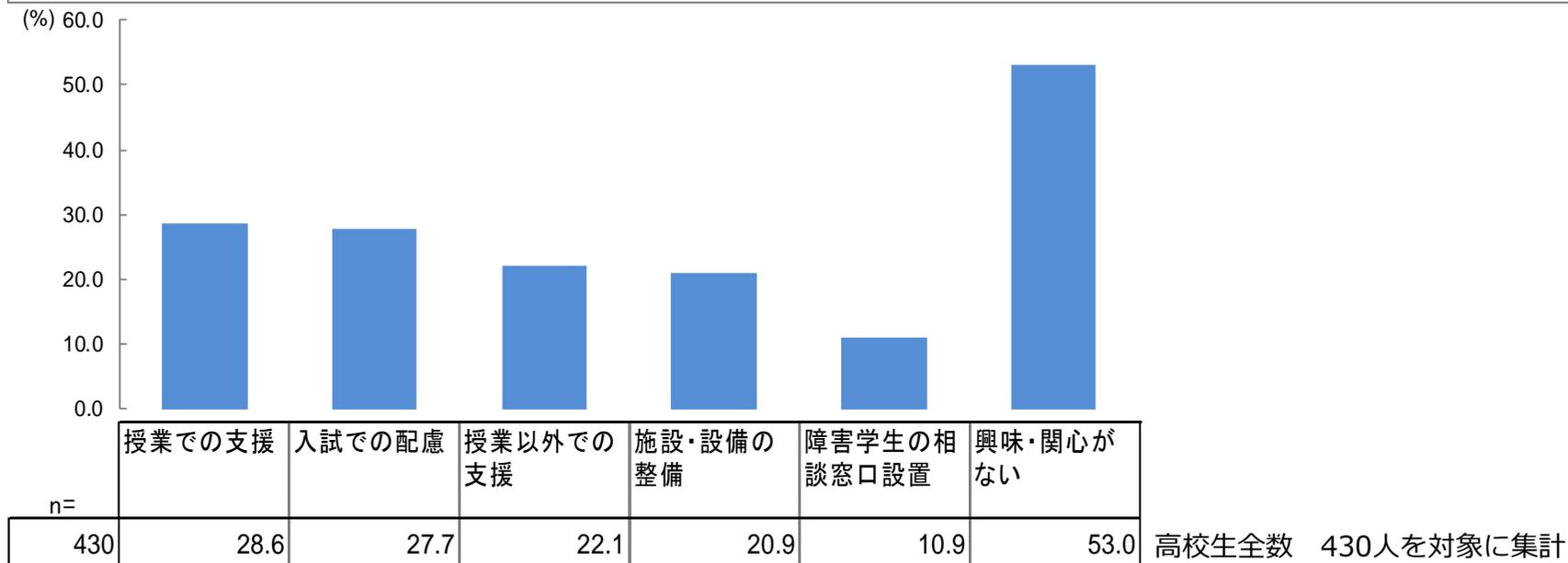


(2) 障害者差別解消法の認知状況



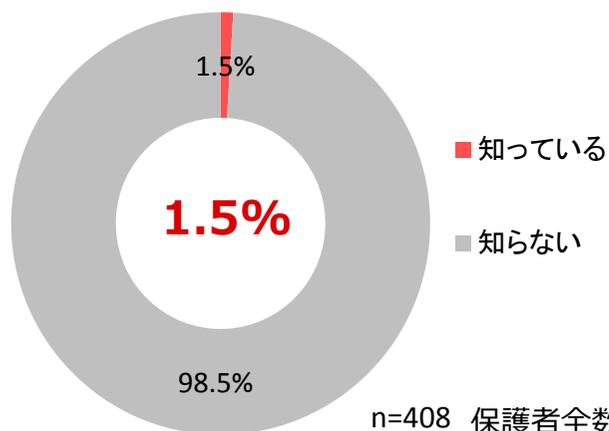
(3) 障害学生支援への興味・関心

➤ 「興味・関心がない」とする高校生が半数を占める一方で、授業での支援や入試での配慮について興味・関心があるとする者が約3割いる。

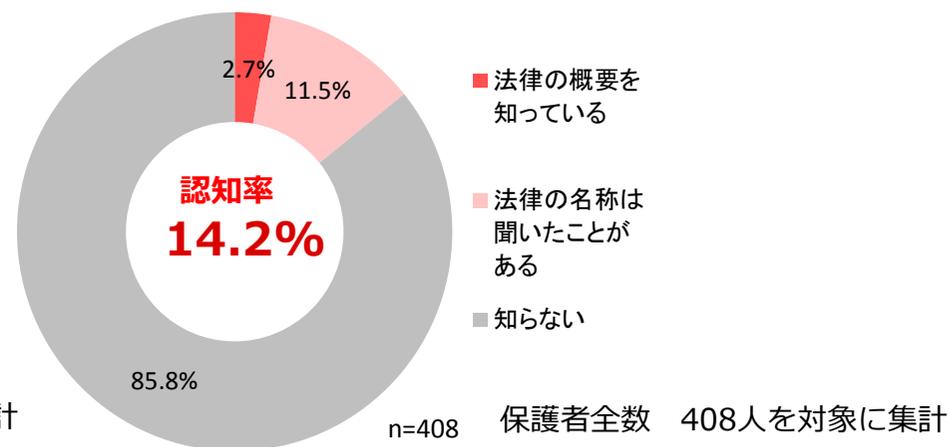


5-2. 障害学生支援事業の認知状況【保護者】 ※今回が初調査

(1) 障害学生支援事業の認知率

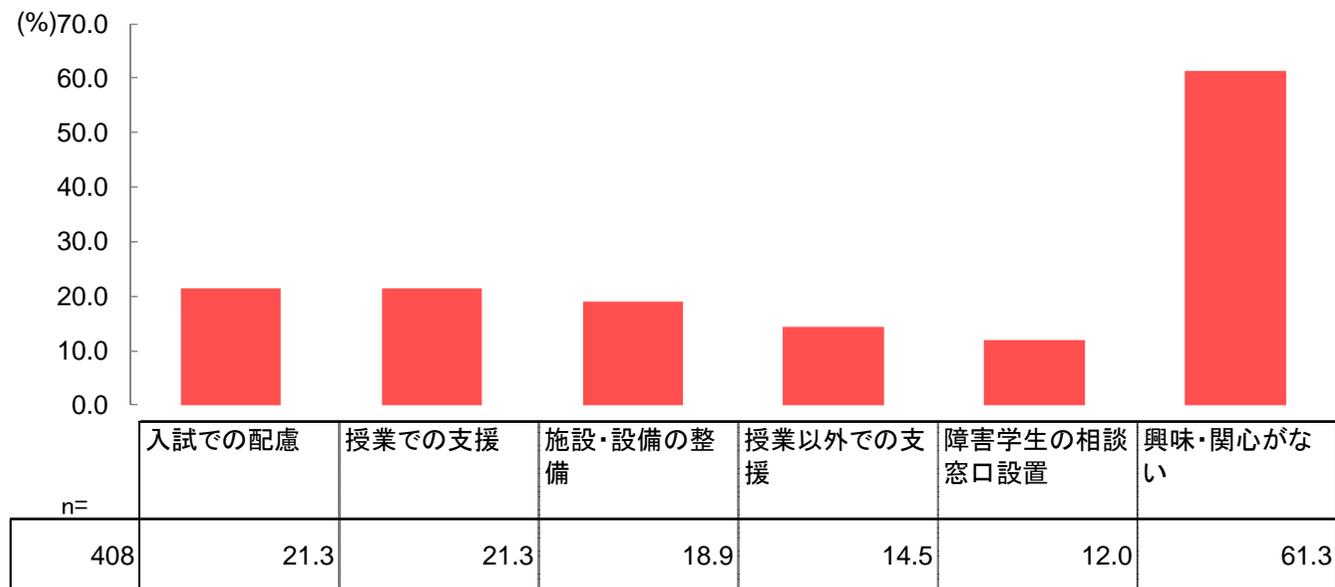


(2) 障害者差別解消法の認知状況



(3) 障害学生支援への興味・関心

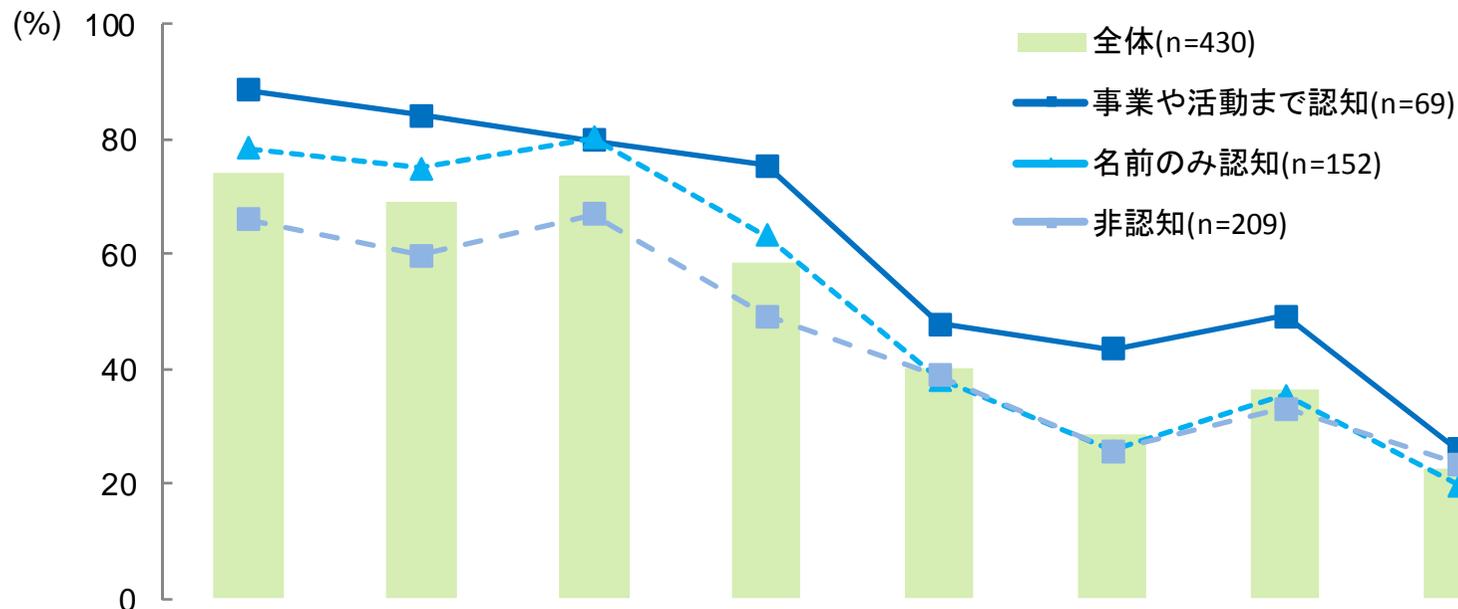
➤ 「興味・関心がない」とする保護者が6割以上いる一方で、授業での支援や入試での配慮について興味・関心があるとする者が2割程度いる。



保護者全数 408人を対象に集計

6-1. 日本学生支援機構のイメージ【高校生】

- 「社会にとって必要な団体である」等とする者が7割前後いる一方、「親しみやすい」とする者は4割、「わかりやすい」とする者は3割弱。



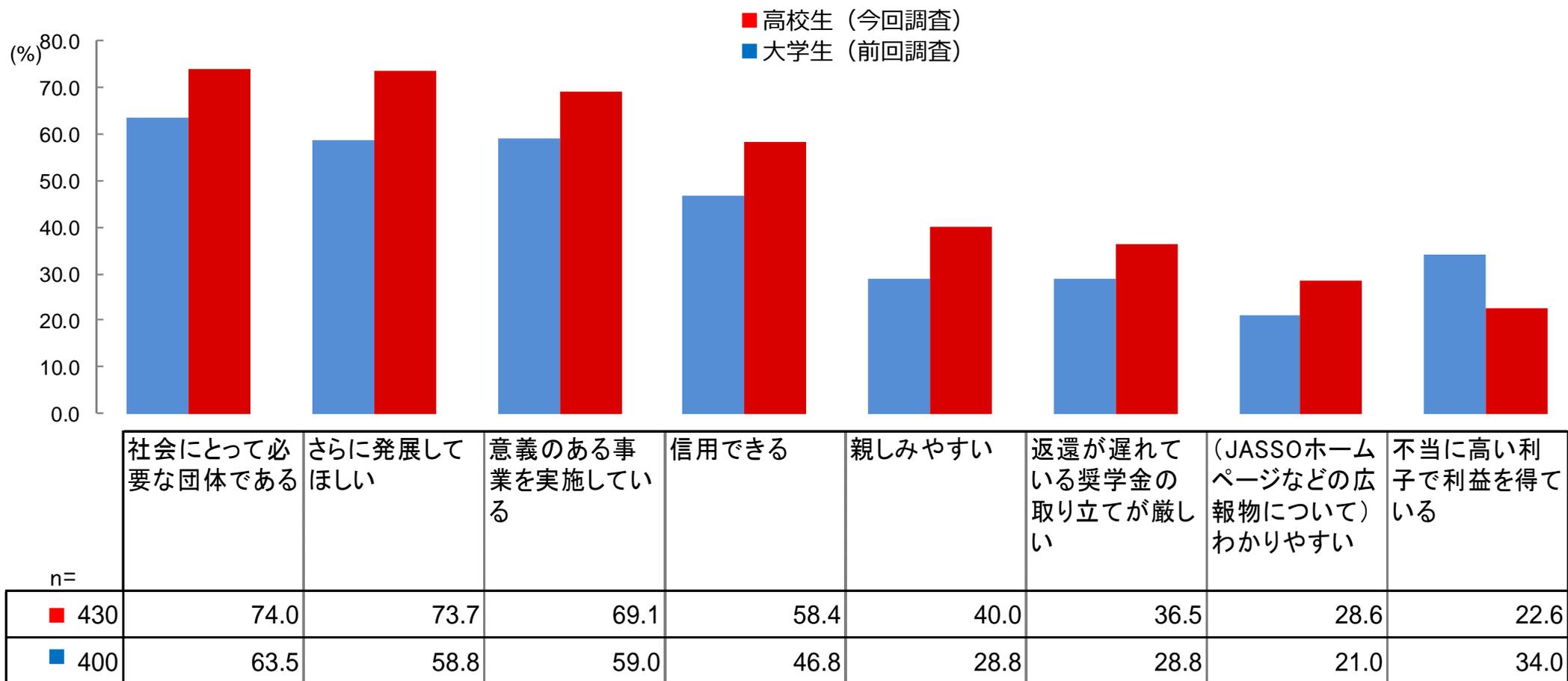
高校生全数430人を対象に集計

n=

		n=	社会にとって必要な団体である	意義のある事業を実施している	さらに発展してほしい	信用できる	親しみやすい	(JASSOホームページなどの広報物について)わかりやすい	返還が遅れている奨学金の取り立てが厳しい	不当に高い利子で利益を得ている
全体		430	74.0	69.1	73.7	58.4	40.0	28.6	36.5	22.6
認知状況	事業や活動まで認知	69	88.4	84.1	79.7	75.4	47.8	43.5	49.3	26.1
	名前のみ認知	152	78.3	75.0	80.3	63.2	38.2	25.7	35.5	19.7
	非認知	209	66.0	59.8	67.0	49.3	38.8	25.8	33.0	23.4

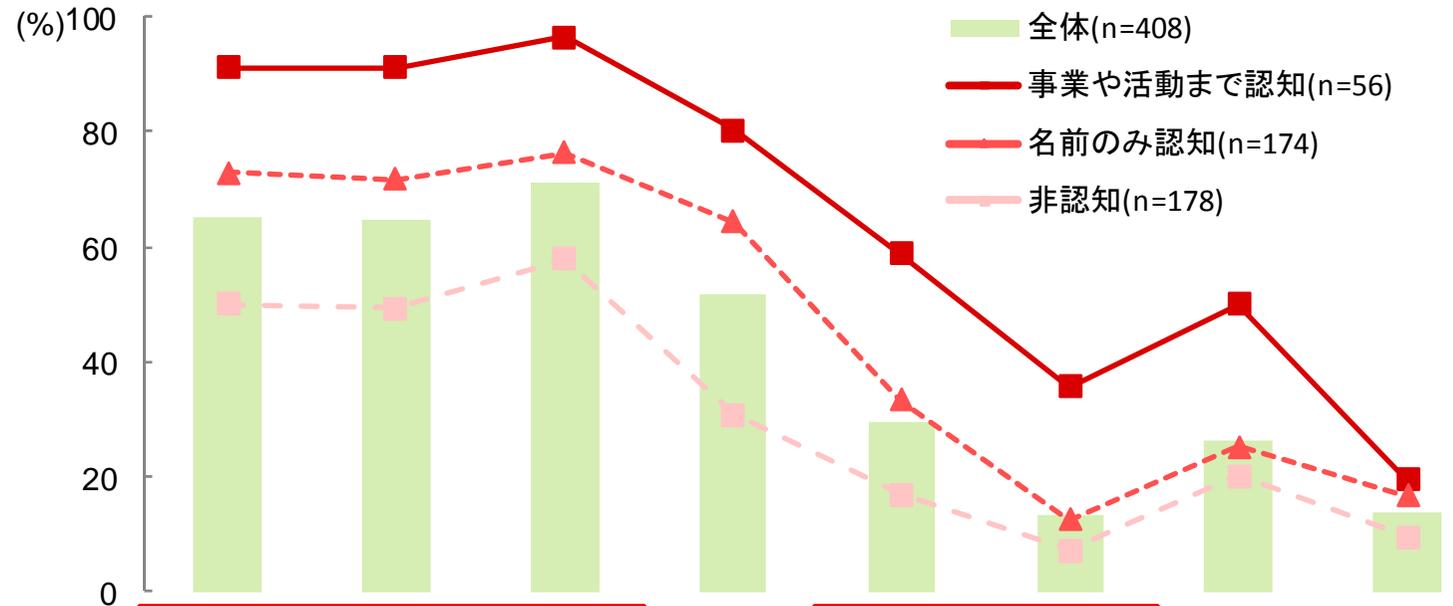
【参考】 前回調査（2016年度・大学生）との比較

※前回とは調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。



6-2. 日本学生支援機構のイメージ【保護者】

- 「社会にとって必要な団体である」等とする者が7割前後いる一方、「親しみやすい」とする者は3割、「わかりやすい」とする者は1割程度。



保護者全数408人を対象に集計

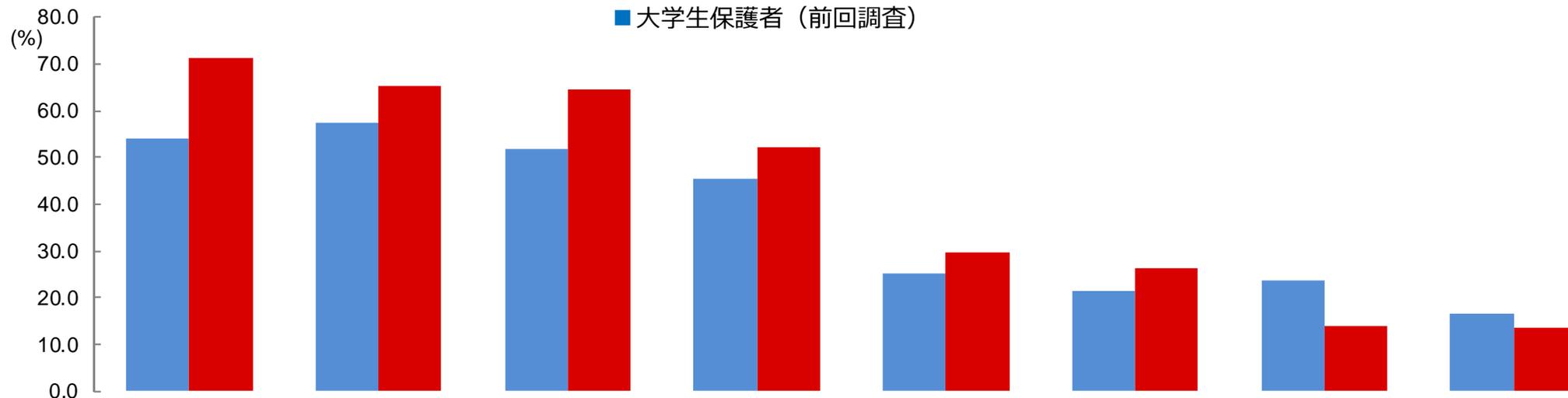
n=

		n=	社会にとって必要な団体である	意義のある事業を実施している	さらに発展してほしい	信用できる	親しみやすい	(JASSOホームページなどの広報物について)わかりやすい	返還が遅れている奨学金の取り立てが厳しい	不当に高い利子で利益を得ている
全体		408	65.4	64.7	71.1	52.0	29.7	13.5	26.5	14.0
認知状況	事業や活動まで認知	56	91.1	91.1	96.4	80.4	58.9	35.7	50.0	19.6
	名前のみ認知	174	73.0	71.8	76.4	64.4	33.3	12.6	25.3	16.7
	非認知	178	50.0	49.4	57.9	30.9	16.9	7.3	20.2	9.6

【参考】 前回調査（2016年度・大学生の保護者）との比較

※前回と調査対象が異なり、単純な比較はできないが、参考情報として掲載。

■ 高校生保護者（今回調査）
■ 大学生保護者（前回調査）



n=	さらに発展してほしい	社会にとって必要な団体である	意義のある事業を実施している	信用できる	親しみやすい	返還が遅れている奨学金の取り立てが厳しい	不当に高い利子で利益を得ている	(JASSOホームページなどの広報物について)わかりやすい
■ 408	71.1	65.4	64.7	52.0	29.7	26.5	14.0	13.5
■ 400	54.0	57.5	51.8	45.5	25.3	21.5	23.8	16.5

7. 日本学生支援機構への意見 自由記述により調査

高校生からの主なご意見

○広報の改善・充実

- ・ホームページやパンフレット等をもっとわかりやすく、親しみやすくしてほしい（多数）
- ・広報活動にもっと力を入れて、本来利用すべき人が利用できるようにしてほしい（多数）
- ・JASSOのことをもっと知りたい、調べてみたい（多数）
- ・JASSOの情報を受験や大学についての情報が載っている雑誌などにのせてほしい 等

○事業の改善・充実

- ・給付型の奨学金をもっと充実させてほしい（多数）
- ・無利子奨学金の充実や、有利子奨学金の利子の引き下げをしてほしい（多数）
- ・もっと返還を楽にしてほしい（多数）
- ・奨学金について直接話をしてほしい
- ・奨学金制度の正しい理解をすすめてほしい
- ・トビタテ！留学の支援人数を増やしてほしい
- ・障害のある子たちがもっと活躍できるようにしてほしい 等

保護者からの主なご意見

○広報の改善・充実

- ・ホームページやパンフレット等をもっとわかりやすく、親しみやすくしてほしい（多数）
- ・広報活動に力を入れてほしい、広告やメディアへのアピールを増やしてほしい（多数） 等

○事業の改善・充実

- ・給付型の奨学金をもっと充実させてほしい（多数）
- ・無利子奨学金の充実や、有利子奨学金の利子の引き下げをしてほしい（多数）
- ・もっと返還を楽にしてほしい（多数）
- ・返還についてもっと詳しく説明したほうがいい（多数）
- ・申し込みをもっと簡単にしてほしい（多数）
- ・高校で講演会をしてほしい
- ・将来につなげるためにも返済はしっかりとさせてほしい。でない不公平感がある
- ・本当に困っている人、本当に学びたい人を助けてほしい
- ・各大学に応じた多様な制度の展開を望みます 等

→ 今回の調査結果も参考にしつつ、広報面を含め各事業の改善・充実を図る